

(参考資料1-1)

日常生活圏域ニーズ調査 モデル事業・結果報告書

平成22年10月

厚生労働省老健局

<目次>

I	調査概要	
1	調査目的	1
2	調査概要	1
3	回収結果	1
II	回答者の属性	
1	年齢構成	3
2	認定状況	3
3	所得段階	3
4	住宅所有関係	3
5	世帯構成	3
III	調査結果の概要	
1	機能	5
2	日常生活	5
3	健康・疾病	6
IV	評価項目別の結果	
1	機能	7
(1)	運動器	7
(2)	閉じこもり予防	8
(3)	転倒	10
(4)	栄養	12
(5)	口腔	13
(6)	認知	14
(7)	うつ予防	18
(8)	虚弱	19
(9)	二次予防対象者	21
2	日常生活	22
(1)	手段的自立度（IADL）	22
(2)	生活機能総合評価	23
(3)	日常生活動作（ADL）	24
3	社会参加	27
(1)	知的能動性	27
(2)	社会的役割	28
V	健康・疾病	
1	疾病	30
(1)	高血圧	30
(2)	脳卒中	30
(3)	心臓病	31
(4)	糖尿病	31
(5)	筋骨格系疾患	32
(6)	がん	32
2	主観的健康感	33
VI	介護	
1	既往症	36
(1)	脳卒中	36
(2)	認知症	36
2	介護の状況	37
(1)	介護の必要性	37
(2)	介護者	37
(3)	利用している在宅サービス	38

I 調査概要

1 調査目的

日常生活圏域における高齢者の地域生活の課題を探り、それらの課題を踏まえた介護保険事業計画を策定することが求められていることにかんがみ、課題の抽出調査及びデータの分析手法等についてのモデル事業を実施し、第5期（平成24～26年）介護保険事業計画の適切な作成に向けた指針に係る基礎情報を得ること等を目的とする。

2 調査概要

- (1) 調査地域 全国57保険者
- (2) 調査対象 65歳以上の高齢者（要支援・要介護認定者を含む。）
- (3) 調査対象者数 35,910人
 - ①家族・生活状況
 - ②運動・閉じこもり
 - ③転倒
 - ④口腔・栄養
 - ⑤認知機能
 - ⑥日常生活
 - ⑦社会参加
 - ⑧健康
- (4) 調査方法 郵送による配布・回収を行ったうえ、補足調査として訪問調査を実施（一部市町村では、郵送のみの調査を実施）
- (5) 調査時期 平成22年5月14日～8月18日

3 回収結果

- (1) 調査対象者数 35,910人
- (2) 有効回収数 30,493人
- (3) 有効回収率 87.0% （登米市、名張市、東近江市を除いて算出）

図表 調査の実施状況

都道府県	NO	市町村 (保険者)	郵送 調査期間	補足 調査期間	配布数(a)	回収数(c)	回収率(c/a)	有効回収数 (d)	有効回収率 (d/a)
北海道	1	福島町	6/10~6/22	7/1~7/9	200	191	95.5%	191	95.5%
青森県	2	五所川原市	6/25~7/7	7/8~7/23	1,993	1,634	82.0%	1,632	81.9%
岩手県	3	一関地区 広域行政組合	5/31~6/18	6/28~7/2	1,408	1,342	95.3%	1,338	95.0%
宮城県	4	登米市	8/2~8/13	8/16~8/18	649	608	93.7%	—	—
秋田県	5	横手市	6/18~6/30	7/1~7/5	25	25	100.0%	25	100.0%
	6	本荘由利広域 市町村圏組合	5/20~6/10	6/11~6/17	25	25	100.0%	25	100.0%
山形県	7	最上町	6/1~6/25	6/7~7/13	2,583	2,470	95.6%	2,465	95.4%
福島県	8	西会津町	5/24~6/15	6/18~6/24	120	115	95.8%	115	95.8%
茨城県	9	東海村	6/7~6/28	7/1~7/12	100	87	87.0%	87	87.0%
	10	神栖市	6/5~6/15	6/21~7/7	109	91	83.5%	90	82.6%
栃木県	11	益子町	5/30~6/11	6/14~6/18	100	99	99.0%	99	99.0%
群馬県	12	渋川市	6/23~7/7	7/14~7/23	400	392	98.0%	389	97.3%
	13	明和町	6/18~6/30	7/5~7/16	996	961	96.5%	958	96.2%
埼玉県	14	上尾市	5/24~6/15	6/17~6/24	20	20	100.0%	20	100.0%
千葉県	15	浦安市	6/1~6/22	6/30~7/5	50	50	100.0%	49	98.0%
東京都	16	府中市	6/22~6/30	7/5~7/8	20	19	95.0%	19	95.0%
新潟県	17	小千谷市	5/20~6/15	6/17~6/24	20	20	100.0%	20	100.0%
富山県	18	砺波市	6/24~7/12	7/1~7/20	429	416	97.0%	414	96.5%
石川県	19	津幡町	6/12~6/21	6/24~6/29	700	644	92.0%	643	91.9%
福井県	20	坂井地区介護 保険広域連合	6/16~6/25	7/15~7/23	1,200	1,052	87.7%	1,051	87.6%
山梨県	21	北杜市	5/22~6/10	6/14~7/2	450	384	85.3%	380	84.4%
長野県	22	御代田町	5/21~6/4	6/11~6/31	2,686	2,070	77.1%	2,063	76.8%
岐阜県	23	岐南町	5/17~6/11	6/14~6/25	1,000	826	82.6%	825	82.5%
静岡県	24	富士宮市	6/21~7/2	7/2~7/9	58	50	86.2%	50	86.2%
	25	富士市	6/10~6/28	6/29~7/2	50	49	98.0%	49	98.0%
	26	掛川市	6/7~6/21	6/22~7/6	100	90	90.0%	89	89.0%
愛知県	27	碧南市	6/29~7/13	7/13~7/16	106	102	96.2%	102	96.2%
	28	一宮市	5/28~6/7	6/18~6/25	20	19	95.0%	19	95.0%
	29	高浜市	6/1~6/16	6/22~7/1	1,000	902	90.2%	896	89.6%
三重県	30	名張市	5/26~6/16	6/31~7/4	150	91	60.7%	(91)	(60.7%)
	31	東員町	5/28~6/14	6/14~6/30	230	218	94.8%	217	94.3%
	32	伊賀市	6/8~6/24	6/25~7/9	1,000	942	94.2%	936	93.6%
滋賀県	33	東近江市	7/28~8/13	8/14~8/18	76	58	76.3%	—	—
大阪府	34	高槻市	6/1~6/18	6/19~6/30	50	38	76.0%	36	72.0%
兵庫県	35	神戸市	6/11~6/25	6/26~7/9	100	82	82.0%	82	82.0%
奈良県	36	大和高田市	6/29~7/7	なし	1,500	943	62.9%	943	62.9%
和歌山県	37	紀の川市	6/21~7/12	なし	1,986	1,579	79.5%	1,579	79.5%
鳥取県	38	南部箕蚊屋 広域連合	5/21~6/18	6/21~6/28	2,000	1,952	97.6%	1,949	97.5%
	39	鳥取市	7/7~7/15	7/26~7/28	80	75	93.8%	75	93.8%
島根県	40	大田市	5/29~6/7	6/15~6/22	1,444	1,367	94.7%	1,363	94.4%
岡山県	41	西粟倉村	5/24~6/4	6/10~6/25	132	129	97.7%	129	97.7%
山口県	42	長門市	6/1~6/11	6/14~6/25	100	92	92.0%	92	92.0%
徳島県	43	鳴門市	5/27~6/10	6/8~6/30	1,000	890	89.0%	883	88.3%
香川県	44	高松市	6/14~6/24	6/25~6/30	600	481	80.2%	480	80.0%
愛媛県	45	松野町	5/20~6/20	なし	200	200	100.0%	200	100.0%
福岡県	46	行橋市	7/1~7/13	7/22~8/2	3,400	2,619	77.0%	2,593	76.3%
	47	大牟田市	6/16~6/25	6/28~7/5	400	370	92.5%	368	92.0%
佐賀県	48	伊万里市	6/1~6/25	6/28~7/2	20	14	70.0%	14	70.0%
長崎県	49	長崎市	5/17~6/11	6/4~6/18	82	80	97.6%	80	97.6%
	50	佐々町	6/25~7/7	7/9~7/20	982	956	97.4%	955	97.3%
熊本県	51	長洲町	6/9~6/16	6/17~6/28	726	726	100.0%	723	99.6%
	52	産山村	6/21~7/2	6/28~7/9	563	477	84.7%	476	84.5%
	53	錦町	6/1~6/10	6/25~7/2	784	702	89.5%	699	89.2%
大分県	54	臼杵市	6/1~6/11	5/25~6/18	1,178	1,078	91.5%	1,057	89.7%
宮崎県	55	えびの市	6/1~6/30	7/1~7/7	200	200	100.0%	200	100.0%
鹿児島県	56	大崎町	5/14~6/15	6/15~6/30	200	164	82.0%	163	81.5%
沖縄県	57	今帰仁村	6/10~6/25	6/17~7/9	110	105	95.5%	98	89.1%
総数					35,910	31,381	87.4%	30,493	87.0%

※ 4登米市 調査終了が遅れたため、今回の報告の対象外とした。

※ 18砺波市 配布・回収は調査員の訪問により行い、郵送による提出は希望者のみ行われた。

※ 21北杜市 郵送配布分のみ回収率:176/200=88%、訪問調査分のみ回収率:208/250=83.2%

※ 30名張市 対象者の年齢、要介護認定区分、所得段階のデータが得られていないため、今回の報告の対象外とした。

※ 33東近江市 調査終了が遅れたため、今回の報告の対象外とした。

※ 45松野町 郵送配布分のみ回収率:20/20=100%

II 回答者の属性

1 年齢構成

単位：人

性	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	総数
男性	(25.6%) 3,272	(25.6%) 3,269	(23.2%) 2,956	(16.0%) 2,040	(9.6%) 1,230	(100.0%) 12,767
女性	(20.7%) 3,665	(22.6%) 4,001	(23.4%) 4,151	(17.9%) 3,169	(15.5%) 2,740	(100.0%) 17,726
総数	(22.7%) 6,937	(23.8%) 7,270	(23.3%) 7,107	(17.1%) 5,209	(13.0%) 3,970	(100.0%) 30,493

2 認定状況

単位：人

性	非認定者	認定者								総数
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
男性	(89.5%) 10,883	(10.5%) 1,279	(2.1%) 255	(2.2%) 263	(1.9%) 233	(2.1%) 252	(1.1%) 129	(0.7%) 88	(0.5%) 59	(100.0%) 12,162
女性	(81.7%) 13,866	(18.3%) 3,102	(4.6%) 776	(4.6%) 788	(3.3%) 568	(2.6%) 440	(1.4%) 242	(1.0%) 165	(0.7%) 123	(100.0%) 16,968
総数	(85.0%) 24,749	(12.3%) 3,575	(3.5%) 1,031	(3.6%) 1,051	(2.7%) 801	(2.4%) 692	(1.3%) 371	(0.9%) 253	(0.6%) 182	(100.0%) 29,130

※認定区分データが得られなかった大田市の回答を除く。

3 所得段階

単位：人

性	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階～	不明	総数
男性	(0.9%) 118	(6.6%) 844	(14.5%) 1,848	(14.0%) 1,784	(59.1%) 7,550	(4.9%) 623	(100.0%) 12,767
女性	(1.6%) 291	(21.6%) 3,823	(11.5%) 2,033	(44.2%) 7,835	(16.7%) 2,964	(4.4%) 780	(100.0%) 17,726
総数	(1.3%) 409	(15.3%) 4,667	(12.7%) 3,881	(31.5%) 9,619	(34.5%) 10,514	(4.6%) 1,403	(100.0%) 30,493

4 住宅の所有関係

単位：人

性	持ち家	借家・借間	その他	無回答	総数
男性	(90.4%) 11,538	(5.2%) 661	(1.5%) 190	(3.0%) 378	(100.0%) 12,767
女性	(87.7%) 15,537	(6.3%) 1,113	(2.0%) 353	(4.1%) 723	(100.0%) 17,726
総数	(88.8%) 27,075	(5.8%) 1,774	(1.8%) 543	(3.6%) 1,101	(100.0%) 30,493

5 世帯構成

単位：人

性別	一人暮らし	配偶者と二人暮らし	配偶者以外と二人暮らし	同居(三人以上)	その他	無回答	総数
男性	(7.7%) 978	(34.2%) 4,372	(4.4%) 559	(44.5%) 5,680	(1.7%) 211	(7.6%) 967	(100.0%) 12,767
女性	(18.5%) 3,288	(20.3%) 3,594	(9.4%) 1,669	(42.8%) 7,593	(2.2%) 387	(6.7%) 1,195	(100.0%) 17,726
総数	(14.0%) 4,266	(26.1%) 7,966	(7.3%) 2,228	(43.5%) 13,273	(2.0%) 598	(7.1%) 2,162	(100.0%) 30,493

Ⅲ 調査結果の概要

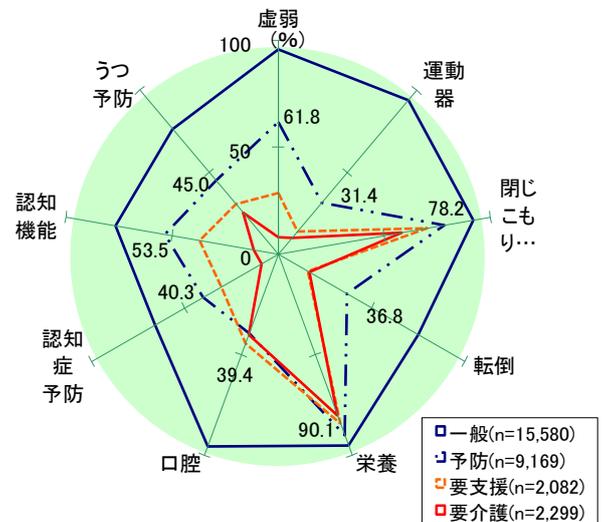
1 機能

(1) 項目別評価結果

生活機能の各評価項目ごとの非該当者（リスクなし）の割合をみると、要介護・要支援認定を受けておらず、また二次予防事業の対象にもならない一般高齢者でその割合が最も高く、次いで二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順となっており、それぞれの生活機能のレベルを反映した結果となっている。

二次予防対象者選定の直接の条件になっていない認知症予防、認知機能、うつ予防、転倒、閉じこもり予防については、二次予防対象者に比べて率は低いものの、一般高齢者の中にも該当者（リスク者）が相当数いることがわかる。

図表 生活機能(非該当・リスクなしの割合)



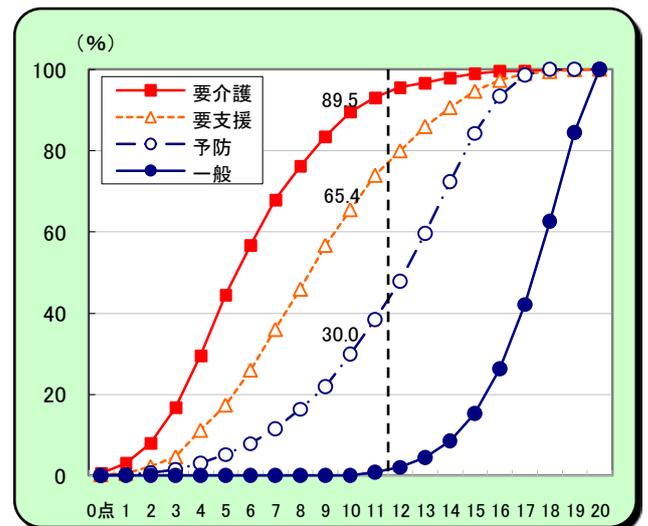
(2) 総合指標

基本チェックリストのうつ予防に関する設問を除く20問について、各設問で非該当となる回答をした場合を各1点として、その合計得点の分布を累積相対度数でみると、10点以下の割合は、二次予防対象者が30.0%、要支援認定者が65.5%、要介護認定者89.5%となっている。

この基本チェックリストの得点により、認定者を含めて高齢者の生活機能のレベルが把握できることがわかる。

10点以下の二次予防対象者については早目のフォローが、また11点以上の要支援・要介護認定者については予防給付などの予防効果の確認が必要と考えられる。

図表 基本チェックリスト合計得点(累積相対度数)



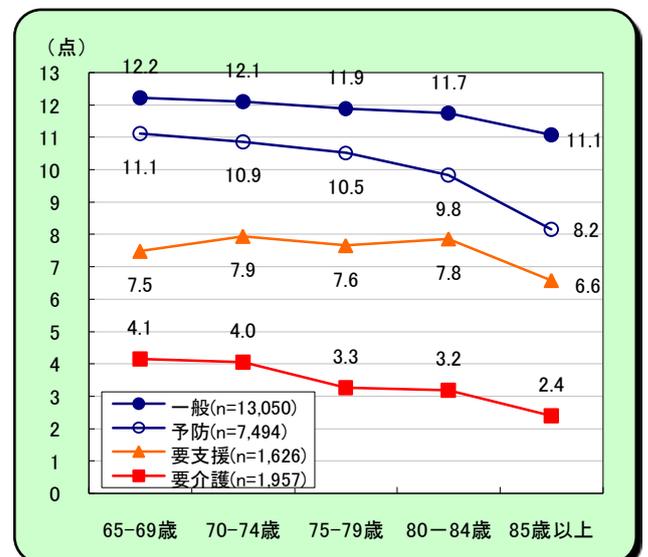
2 日常生活

(1) 老研式活動能力指標(IADL)

IADLを中心とした高齢者の比較的高次の生活機能の指標として定着している老研式活動能力指標(13項目)について、その生活機能得点(平均)みると、いずれの年代で比較しても一般高齢者が最も高く、次いで二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順となっている。

認定の有無にかかわらず、年齢が上がるほどその得点は低下しているが、二次予防対象者でその低下幅が大きくなっている。

図表 認定状況別生活機能得点

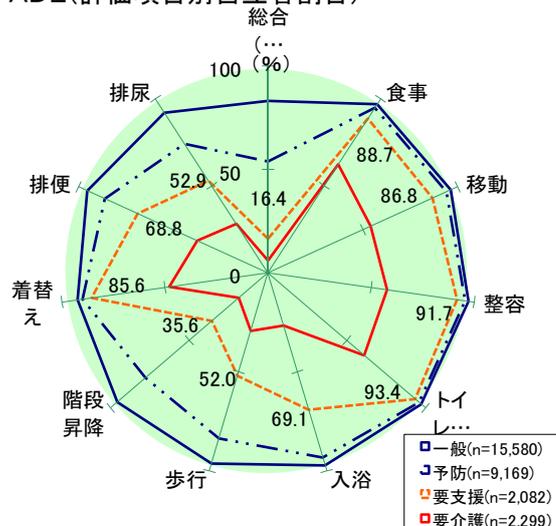


(2) 日常生活動作(ADL)

高齢者の日常生活動作（ADL）の状況を見ると、「自立」と評価される者の割合は、いずれの項目でも一般高齢者が最も高く、次いで二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順となっている。

要介護認定者と二次予防対象者の間に位置する要支援認定者についてみると、食事、移動、整容、トイレ動作については、いずれも自立の割合が9割前後になっている一方、階段昇降、歩行、排尿についてはそれぞれ35.6%、52.0%、52.9%と低下しており、日常生活動作の中でも、比較的早い時期に低下するものとうでないものがあることがうかがえる。

図表 ADL(評価項目別自立者割合)



3 健康・疾病

(1) 既往症

疾病の既往症の状況を見ると、要介護の原因となる脳卒中、心臓病、糖尿病、筋骨格系、外傷、認知症では、認定者の既往率が高くなっている。

要介護の原因疾病の中でも、脳卒中や認知症などは要介護認定者で既往率が顕著に高くなっている一方、筋骨格系では要支援認定者の既往率が最も高くなっており、要介護のレベルによって原因疾病の構成割合が異なっていることがわかる。

図表 疾病の状況(既往症)

疾病	単位: %			
	一般	予防	要支援	要介護
高血圧	37.5	43.8	50.3	41.4
脳卒中	1.5	4.0	10.6	16.8
心臓病	9.2	16.7	24.3	20.3
糖尿病	10.1	13.3	15.1	15.3
高脂血症	8.0	8.5	8.0	5.4
呼吸器系	7.2	12.0	13.1	14.3
消化器系	15.3	20.7	22.8	18.1
泌尿器・生殖器系	8.8	11.9	14.8	15.2
筋骨格系	10.2	23.7	42.4	26.5
外傷・中毒	1.7	3.2	4.1	4.2
がん	5.5	6.4	7.4	7.8
血液・免疫	0.9	2.0	3.1	2.6
感染症等	0.2	0.4	1.0	0.9
認知症	0.2	1.5	4.3	27.3
神経系	1.5	3.7	5.4	5.6
目	21.9	33.4	46.1	35.5
耳	7.4	12.1	14.7	10.4
皮膚	6.9	9.1	11.8	10.8
歯科	43.4	41.2	35.5	28.1

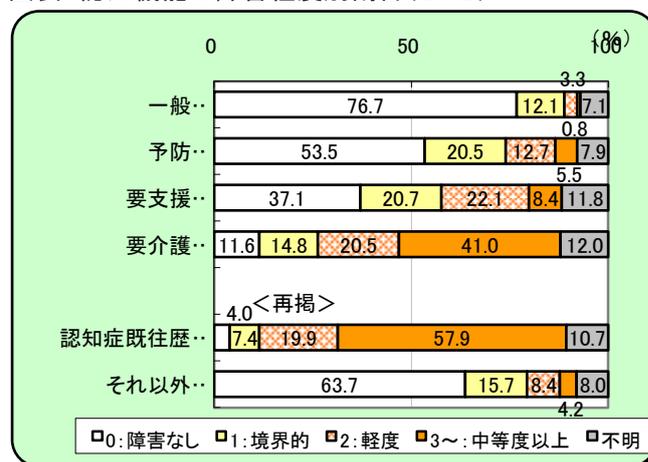
(2) 認知機能の障害程度

回答結果からCPSに準じて評価される認知機能の障害程度区分の分布をみてみると、認知機能の障害ありと評価される者の割合が最も高いのは要介護認定者で(76.4%)、次いで要支援認定者(51.2%)、二次予防対象者(38.7%)、一般高齢者(16.2%)の順となっている。

CPSで認知症の行動・心理症状がみられるのは3レベル以上といわれており、その割合は、要介護認定者で41.0%、要支援認定者8.4%、二次予防対象者5.5%になっている。率では低いものの、数では二次予防対象者のほうが要支援認定者より多くなっている。

認知症の既往歴の有無別にこの評価結果の分布をみると、既往歴ありでは85.3%が、それ以外では28.3%が障害ありと評価されている。

図表 認知機能の障害程度別割合(CPS)



IV 評価項目別の結果

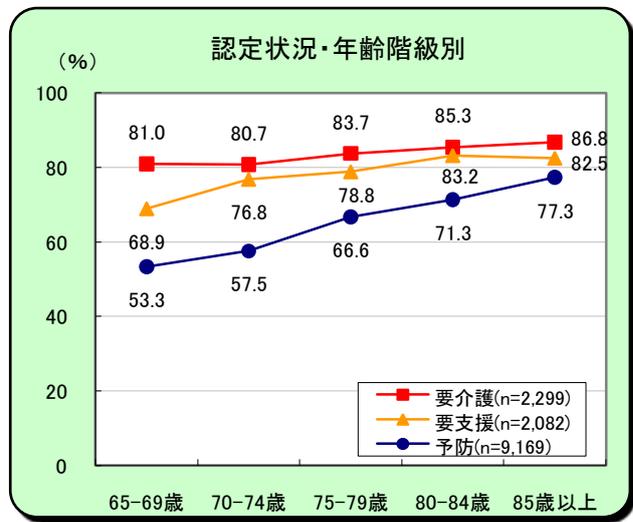
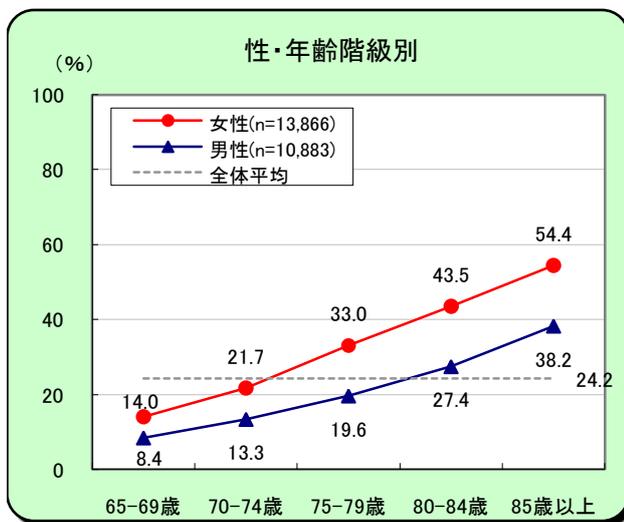
1 機能

(1) 運動器

① 該当状況

- 基本チェックリストに基づく運動器の評価結果をみると、認定者を除く全体で24.2%、男性で17.5%、女性29.5%が該当者となっており、男性より女性のほうが、また年齢が上がるほど該当者割合が高くなっている。
- 二次予防対象者と認定者について評価結果を比較すると、いずれの年代でも要支援認定者、要介護認定者のほうが該当者割合が高くなっている。
- 二次予防対象者全体に占める運動器の該当者割合は65.4%と、基本チェックリストの評価項目の中で最も高くなっている。

図表 該当者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



※認定者を除く。

② 回答状況

- 評価の基礎になった設問に対する回答結果を認定者と比較してみると、認定者の該当率(感度)が80%を超える設問が3問(問2-1・2、問3-2)、非認定者の非該当率(特異度)が70%を超える設問が3問(問2-2・3、問3-1)となっており、運動器に関する基本チェックリストの設問が高齢者の生活機能のレベルを示す設問として有効なことがうかがえる。

図表 回答結果

単位: %

設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		※特異度
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問2-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(いいえ)	43.7		87.4		(56.3)
	26.8	71.9	85.1	89.5	
問2-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか(いいえ)	23.8		83.6		(76.2)
	6.2	53.2	81.1	85.8	
問2-3 15分位続けて歩いていますか(いいえ)	21.2		72.7		(78.8)
	8.6	42.4	65.1	79.6	
問3-1 この1年間に転んだことがありますか(はい)	23.3		55.2		(76.7)
	10.8	44.1	53.6	56.7	
問3-2 転倒に対する不安は大きいですか(はい)	45.6		88.8		(54.4)
	26.3	77.2	90.1	87.6	

※特異度は、非認定者と認定者との比較(以下同じ)

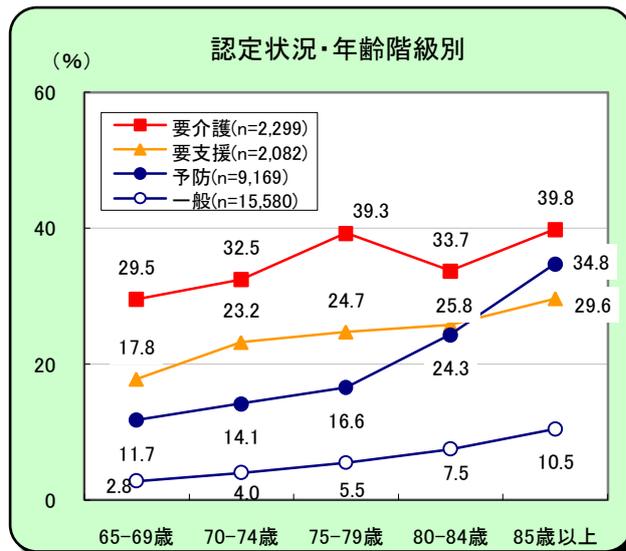
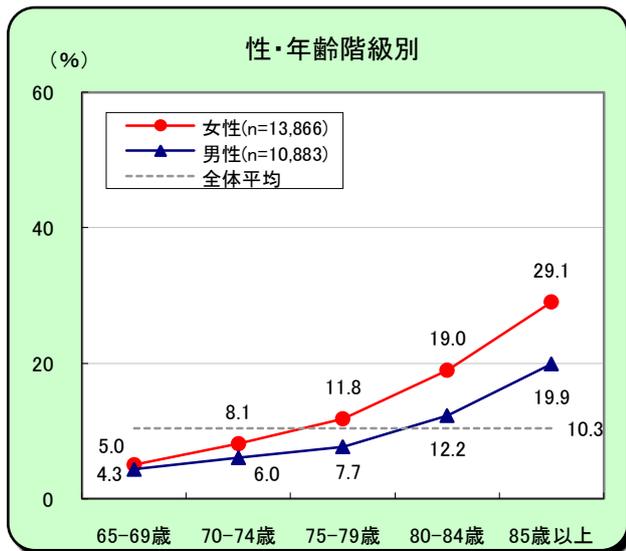
※無回答は除いて算出

(2) 閉じこもり予防

① 該当状況

- 基本チェックリストの閉じこもり予防の該当状況をみると、認定者を除く全体で10.3%（男性8.0%、女性12.2%）となっており、やはり男性より女性のほうが、また年齢が上がるほど該当者割合が高くなっている。
- 認定状況別に結果をみると、全体では非認定者より認定者のほうが該当者割合が高くなっているものの、85歳以上では二次予防対象者のほうが要支援認定者よりも高くなっている。比較的生活機能が高い一般高齢者でも該当者割合は4.7%となっている。

図表 該当者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



※認定者を除く。

② 回答状況

- 評価の基礎になった設問に対する回答結果を非認定者と認定者で比較してみると、認定者の該当率は33.3%、非認定者の非該当率は89.6%となっており、認定状況のある程度反映している。
- 関連する設問の回答をみると、閉じこもり要因の参考となる5m歩行の可否については、認定者では31.6%で、閉じこもりの該当率に近くなっている一方、非認定者では3.7%と、閉じこもりの該当率(10.4%)に比べてかなり低くなっている。認定者では身体的な要因、非認定者ではそれ以外の要因による閉じこもりが多いことがうかがえる。
- 外出目的別では、買物や趣味等で認定者と非認定者の差が大きくなっている。

図表 回答結果

単位:%

設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		特異度
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問2-5 週に1回以上は外出していますか (いいえ)	10.4		33.3		(89.6)
	4.8	19.9	27.2	38.9	
<関連設問>					
問2-4 5m以上歩けますか (いいえ)	3.7		31.6		(96.3)
	0.8	8.6	21.1	41.1	
問2-6 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (はい)	31.7		64.6		(68.3)
	18.5	53.9	69.1	60.4	
問2-8 外出する頻度はどのくらいですか	16.0		59.1		(84.0)
①買物 (週1日未満)	10.9	25.0	47.1	73.9	
問2-8 外出する頻度はどのくらいですか	18.7		49.6		(81.3)
②散歩 (週1日未満)	13.5	28.1	41.9	57.9	
問2-8 外出する頻度はどのくらいですか	35.9		63.7		(64.1)
③通院通所 (週1日以上)	32.1	40.4	61.5	65.8	
問2-8 外出する頻度はどのくらいですか	32.3		74.7		(67.7)
④趣味等 (週1日未満)	25.3	45.4	65.3	84.3	

設 問	選択肢	一般	二次予防	要支援	要介護
問2-7 外出を控えている理由は、次のどれですか	病気	2.0	10.1	19.3	24.9
	障害	0.3	3.3	9.9	19.2
	痛み	11.1	46.1	65.6	46.3
	トイレ	1.4	9.4	19.6	19.9
	耳の障害	1.8	8.1	12.5	9.4
	目の障害	1.3	6.1	12.4	9.0
	外の楽しみ	3.0	8.3	11.9	9.3
	経済的に	5.0	9.1	5.9	3.0

(3) 転倒

①設問と評価

- 今回の調査では、基本チェックリストの結果に基づく運動器の機能の評価に加え、転倒リスクについても別に評価ができるよう、設問が設けられている。
- 具体的には、杏林大学の鳥羽研二教授により開発された簡易式の転倒チェックシートの設問で、調査票の問3-1・3~5、問8-3の5問である（設問の表現については、その趣旨を変えない範囲で一部修正）。
- 内容としては、転倒経験（基本チェックリストと重複）、背中中の形状の変化、杖の使用、歩行速度、薬の多剤服用の有無となっている。
- 評価における各設問に対する配点は下の図表のとおりであり、転倒経験が5点、その他が各2点で、13点満点のスコアとして評価が可能である。
- スコアの評価としては、カットオフポイント6/7点で転倒予測の尺度として実用的とされているが、今回は介護予防も前提に6点以上を転倒リスクありとして評価している。

図表 転倒リスクの評価方法

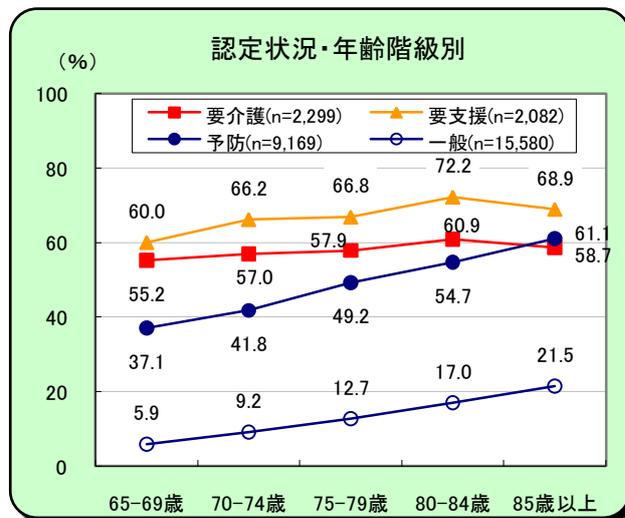
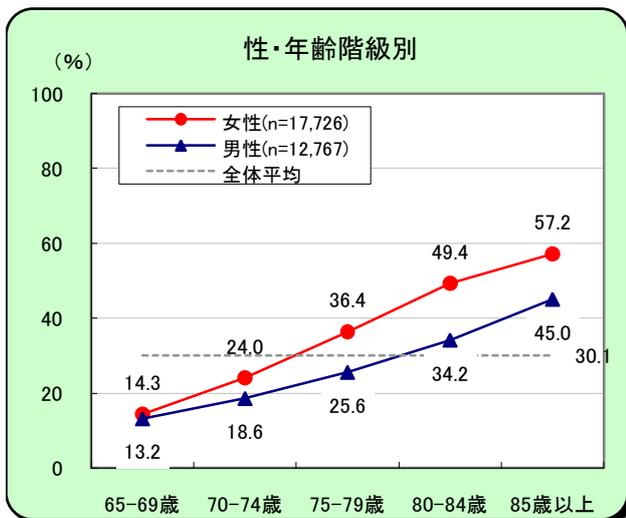
問番号	設問	配点と選択肢
問3-1	この1年間に転んだことがありますか	5:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問3-3	背中が丸くなってきましたか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問3-4	歩く速度が遅くなってきたと思いますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問3-5	杖を使っていますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問8-3	現在、何種類の薬を飲んでいますか	2:「5. 5種類以上」 0:1~4または6

★6点以上でリスクあり

②リスク状況

- 転倒のリスク者割合をみると、認定者も含む全体で30.1%（男性23.9%、女性34.6%）で、男性より女性のほうが、また年齢が上がるほどリスク者割合が高くなっている。
- 認定状況別に見ると、要介護認定者より要支援認定者のほうがリスク者割合が高くなっている。二次予防対象者では年齢が上がるとともにリスク者割合が急激に高くなっており、85歳以上では要介護認定者よりもリスク者割合が高くなっている。

図表 リスク者割合（性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別）



③回答状況

●評価の基礎になった設問に対する回答結果をみると、認定者の該当率が60%を超える設問が3問（問3-3～5）、非認定者の非該当率（特異度）が60%を超える設問が4問（問3-1・3・5、問8-3）あり、それぞれの生活機能レベルを反映した結果となっている。

図表 回答結果

単位：%

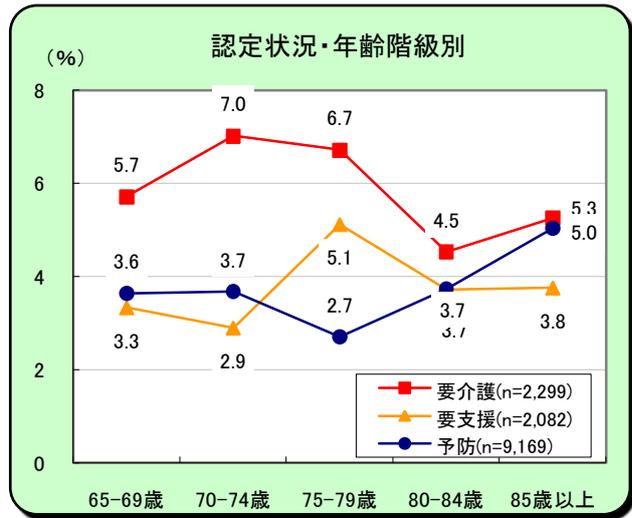
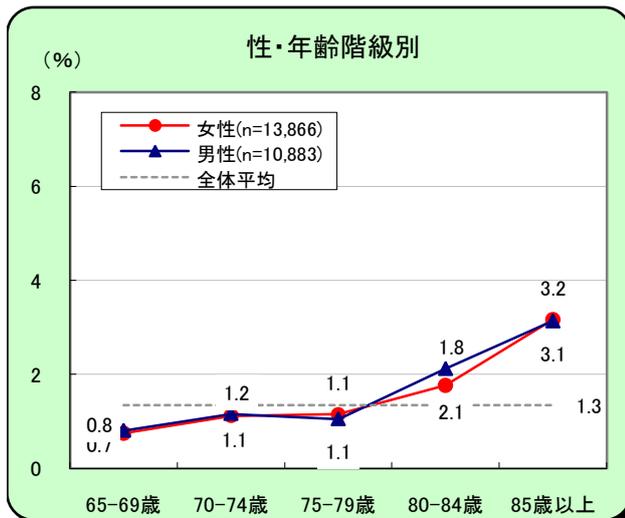
設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		特異度
	一般 (n=15,580)	二次予防 (n=9,169)	要支援 (n=2,082)	要介護 (n=2,299)	
問3-1 この1年間に転んだことがありますか (はい)	23.3		55.2		(76.7)
	10.8	44.1	53.6	56.7	
問3-3 背中が丸くなってきましたか (はい)	35.3		65.2		(64.7)
	25.1	52.4	65.0	65.5	
問3-4 歩く速度が遅くなってきたと思いますか (はい)	61.7		89.9		(38.3)
	47.4	85.8	92.4	87.3	
問3-5 杖を使っていますか (はい)	14.6		67.8		(85.4)
	5.4	30.0	74.8	60.7	
問8-3 現在、何種類の薬を飲んでいますか (5種類以上)	23.1		49.3		(76.9)
	13.9	32.7	56.6	48.6	

(4) 栄養

① 該当状況

- 基本チェックリストに基づく栄養改善の該当状況をみると、認定者を除く全体で1.3%（男性1.3%、女性1.4%）が該当者となっており、該当者割合は他の項目に比べて非常に低い。年齢が上がるほど該当者割合が高くなっている一方、男女差は小さな項目となっている。
- 二次予防対象者と認定者について評価結果を比較すると、要支援認定者（3.9%）と二次予防対象者（3.6%）では該当者割合にほとんど差がない結果となっている。
- 二次予防対象者全体に占める栄養の該当者割合は低く、介護予防事業では対象者を個別にフォローする訪問型の介護予防事業が中心になるものと考えられる。

図表 該当者割合（性・認定状況・年齢階級別）



※認定者を除く。

② 回答状況

- 評価の基礎になった設問に対する回答結果を認定状況別に比較してみると、各設問における認定者の該当率は低いものの、非認定者に比べるとかなり高くなっており、高齢者の生活機能のレベルに関連する指標として有効なことがうかがえる。
- 関連する設問の食事動作については、認定者と非認定者で回答結果に差がみられる。

図表 回答結果

単位：%

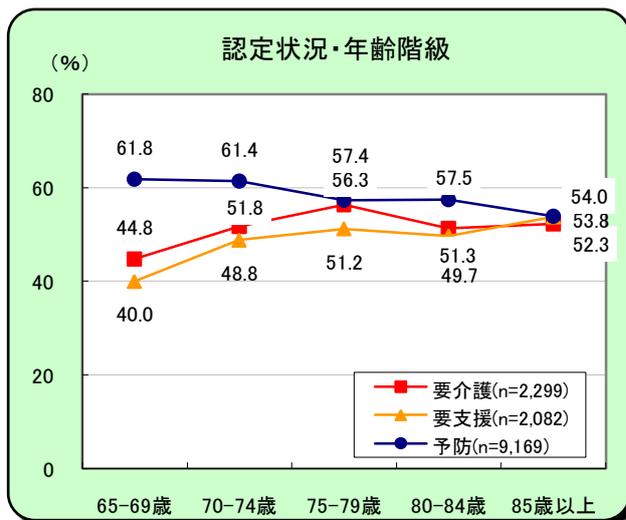
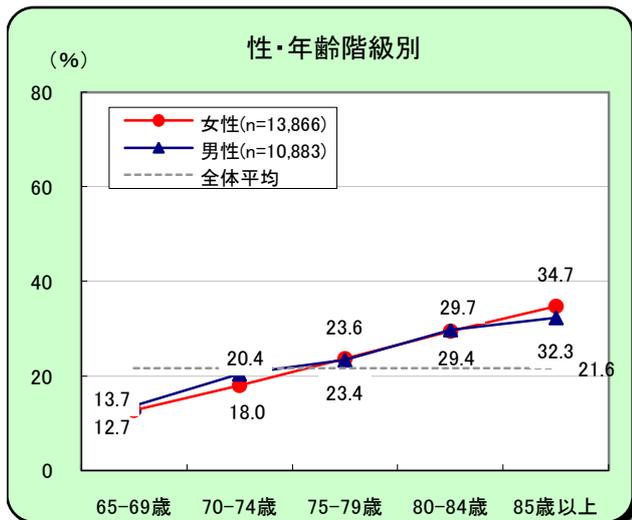
設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		特異度
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問4-1 6カ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか(はい)	14.6		29.3		(85.4)
	9.8	22.9	29.1	29.5	
問4-2 身長、体重 (BMI=体重/(身長×身長)<18.5)	7.0		17.1		(93.0)
	5.1	10.4	13.5	20.7	
<関連設問>					
問6-6 食事は自分で食べられますか(「一部介助があればできる」または「できない」)	1.1		22.0		(98.9)
	0.2	2.5	7.8	34.9	

(5) 口腔

① 該当状況

- 基本チェックリストに基づく口腔に関する評価結果をみると、認定者を除く全体の該当者割合は21.6%（男性21.6%、女性21.7%）となっており、年齢が上がるほどその割合は高くなっているものの、栄養と同様、男女差は比較的小さな項目となっている。
- 二次予防対象者と認定者の該当者割合を比較すると、二次予防対象者58.9%に対し、要支援認定者50.9%、要介護認定者52.3%と、二次予防対象者が最も高くなっている。
- 二次予防対象者全体に占める口腔の該当者は、運動に次いで多く、介護予防事業では通所型の事業が中心になると考えられる。

図表 該当者割合(性・認定状況・年齢階級別)



※認定者を除く。

② 回答状況

- 評価の基礎になった設問に対する回答結果を認定者と比較してみると、各設問における認定者の該当率は49.4%～65.7%、非認定者の非該当率は62.8%～78.8%と、高齢者の生活機能のレベルを示す指標として有効なことがうかがえる。
- 関連する設問についてみると、問4-3は、内容的に問4-4と重なることもあり、ほぼ同様な結果となっているが、問4-7～9については、認定者と非認定者で顕著な差はみられない。

図表 回答結果

単位: %

設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		特異度
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問4-4 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (はい)	37.2	65.7	63.2	68.1	(62.8)
問4-5 お茶や汁物等でむせることがありますか (はい)	21.2	49.4	45.5	53.0	(78.8)
問4-6 口の渇きが気になりますか (はい)	25.3	49.6	50.3	48.9	(74.7)

<関連設問>

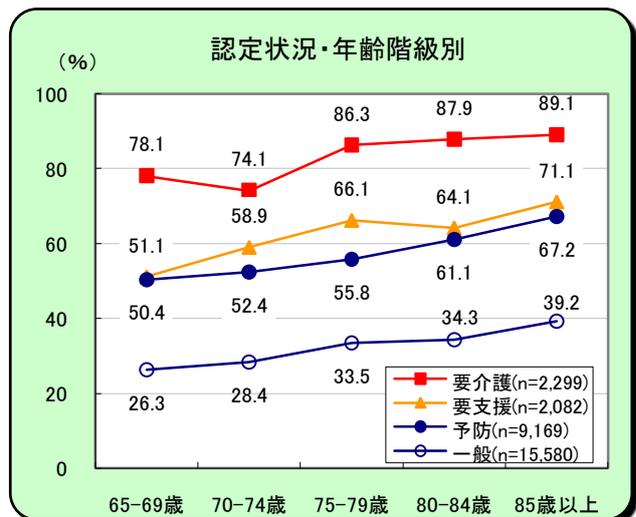
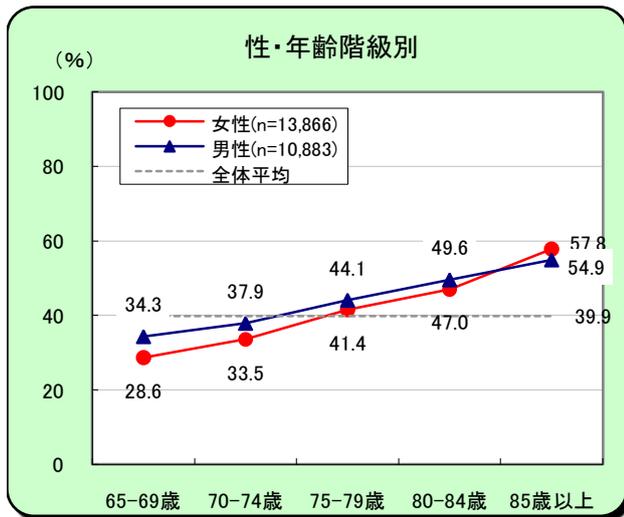
問4-3 固いものが食べにくいですか (はい)	45.4	74.5	70.2	78.4	(54.6)
問4-7 歯磨きを毎日していますか (いいえ)	10.2	21.3	12.2	29.7	(89.8)
問4-8 定期的に歯科検診を受けていますか (いいえ)	74.5	86.1	84.4	87.6	(25.5)
問4-9 定期的に歯石除去や歯面掃除をしてもらっていますか (いいえ)	78.1	88.6	87.4	89.7	(21.9)

(6) 認知

① 該当状況

- 基本チェックリストにおける認知症予防の該当状況をみると、認定者を除く全体で39.9%（男性41.3%、女性38.7%）となっており、やはり年齢が上がるほど該当者割合が高くなっているものの、男女差は比較的小さくなっている。
- 認定状況別にみると、要支援認定者と二次予防対象者で該当者割合にあまり差がないことが特徴的になっている。

図表 該当者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



※認定者を除く。

② 回答状況

- 設問に対する回答結果を認定者と比較してみると、認定者の該当率は47.8%~59.5%、非認定者の非該当率は73.8%~90.2%で、高齢者の生活機能のレベルを示す指標として有効なことがうかがえる。要支援と要介護の認定者で該当率に大きな差があることが特徴的になっている。
- 関連する設問である認知症の既往歴については、認定者と非認定者で既往率に大きな差が出ており、特に要介護認定者の既往率が高くなっている。

図表 回答結果

単位: %

設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		特異度
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問5-1 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると 言われますか (はい)	21.9		56.0		(78.1)
問5-2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることを していますか (はい)	13.4	36.4	43.2	68.0	(90.2)
	9.8	6.4	25.1	68.7	
問5-3 今日が何月何日かわからない時がありますか (はい)	26.2		59.5		(73.8)
	18.4	39.2	46.6	71.3	

<関連設問>

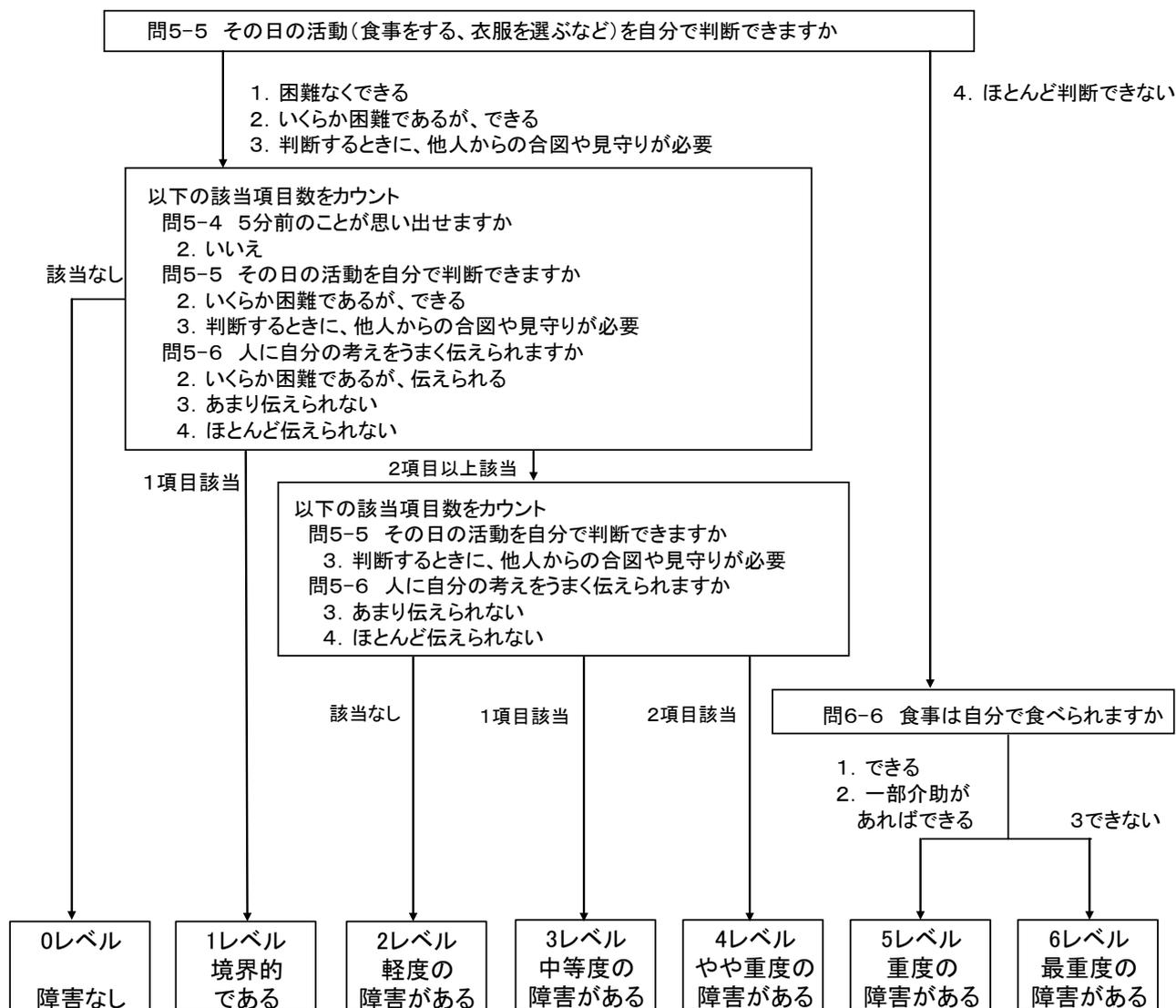
問1-6 これまでにかかった病気はありますか (認知症)	0.6		16.4	
	0.2	1.4	4.3	27.3
問8-2 現在治療中の病気はありますか (認知症)	0.6		13.2	
	0.2	1.3	3.6	22.0

③認知機能障害程度(CPS)

・設問と評価

- 今回の調査には、認知機能の障害程度の指標として有用とされるCPS(Cognitive Performance Scale) に準じた設問が含まれている。
- 設問としては調査票の問5-4～6及び問6-6で、内容的には要介護認定調査の主治医意見書欄にある内容である。
- 本来は観察者による評価がされることにより客観的な指標となるが、今回は自記式の調査ではあるものの、下図にあるように比較的簡易に認知機能の障害程度の評価が可能であることから、調査票に盛り込まれている。
- 設問に対する回答内容により、0レベル(障害なし)から6レベル(最重度の障害がある)までに評価が可能となっている。

図表 認知機能の障害程度の評価方法

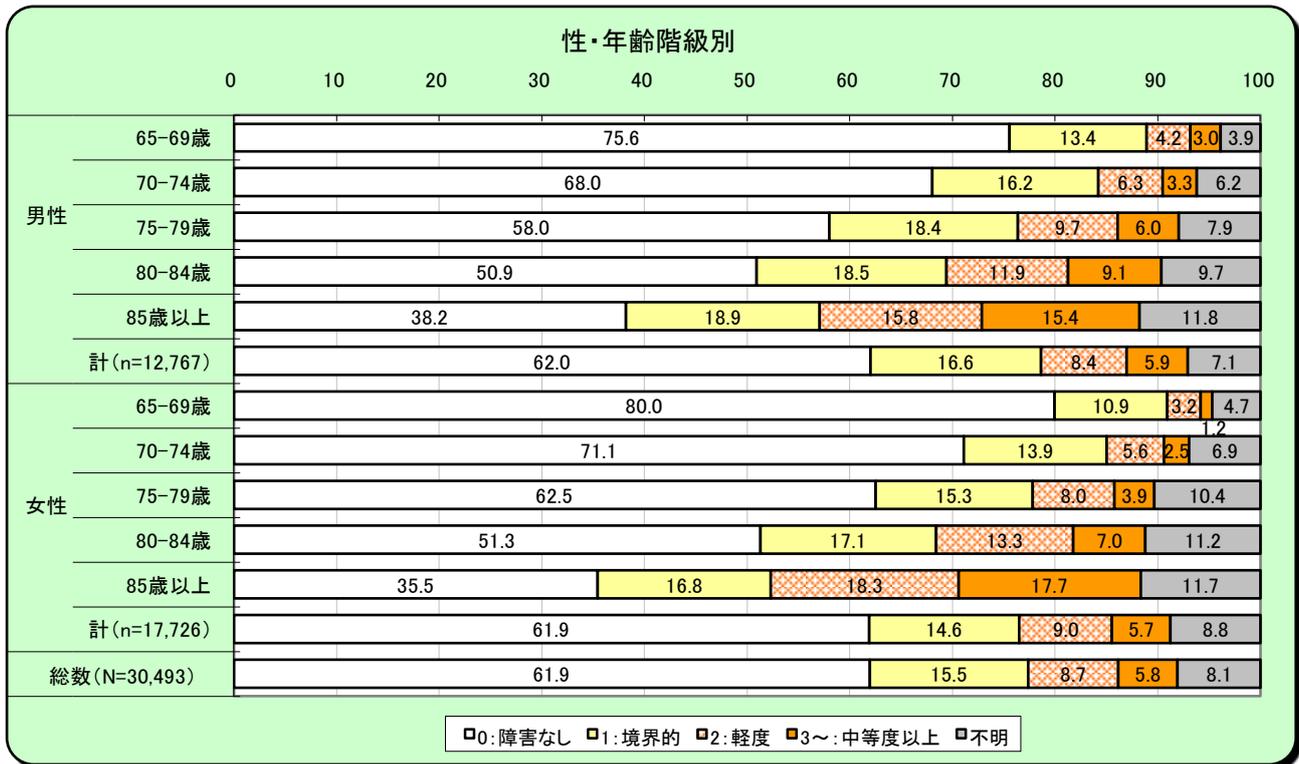


④リスク状況

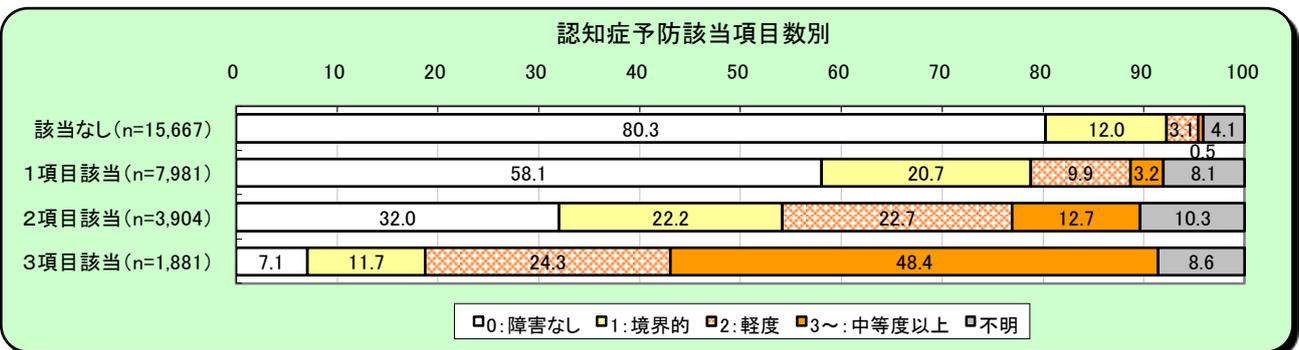
●評価結果をみると、1レベル以上の障害程度と評価されるリスク者の割合は、全体で30.0%、男性30.9%、女性29.4%で、男女ではほとんど差がない結果となった。年齢別にみると、やはり年齢が上がるほどリスク者割合が高くなっている。

●基本チェックリストの認知症予防に関する各設問の該当項目数ごとに、障害程度区分別の構成割合をみると、該当項目数が多くなるほど2レベル、3レベル以上が多くなっている。認知症予防の評価で3項目該当する場合は、90%以上が1レベル以上の認知機能の障害あり（不明を除く。）という結果となっている。

図表 障害程度区分別割合(性・年齢階級別)



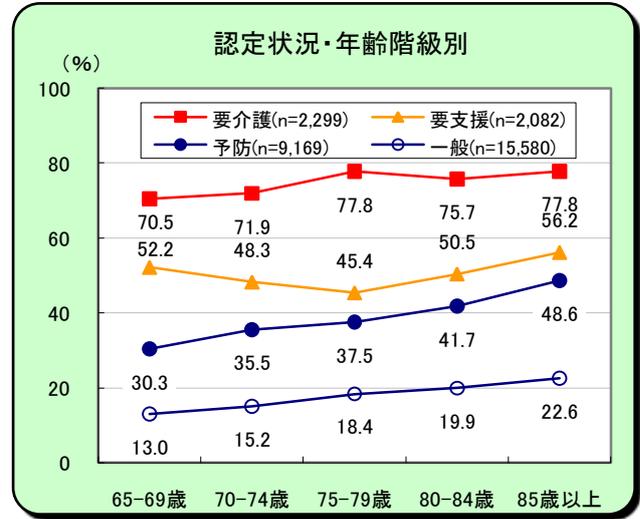
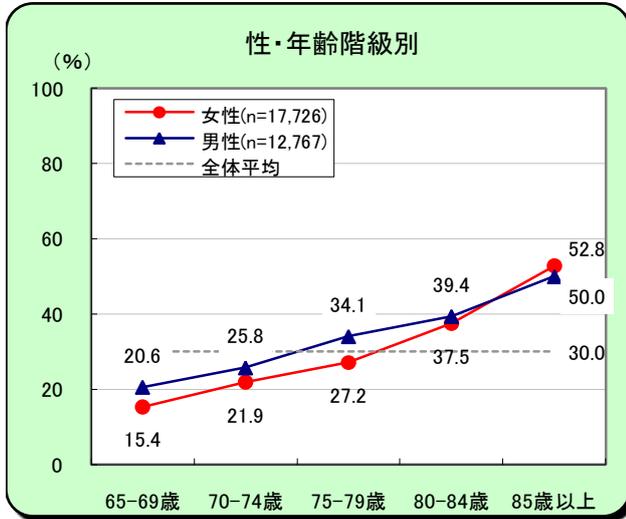
図表 障害程度区分別割合(認知症予防該当項目数別)



※認知症予防判定が不明な者を除く。

●認定状況別にリスク者割合をみると、要介護認定者が76.4%で最も高く、次いで要支援認定者(51.1%)、二次予防対象者(38.6%)、一般高齢者(16.2%)の順となっている。認知症予防の評価結果と同様、要支援認定者と二次予防対象者の差が比較的小さくなっている。

図表 リスク者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



⑤回答状況

●設問に対する回答結果を認定状況別に比較してみると、認定者の該当率が50%を超えている設問が2問(問5-5・6)、非認定者の非該当率が80%を超えている設問が4問となっている。各設問とも要介護認定者と要支援認定者で該当率に大きな差がみられる。

図表 回答結果(認知機能障害)

単位: %

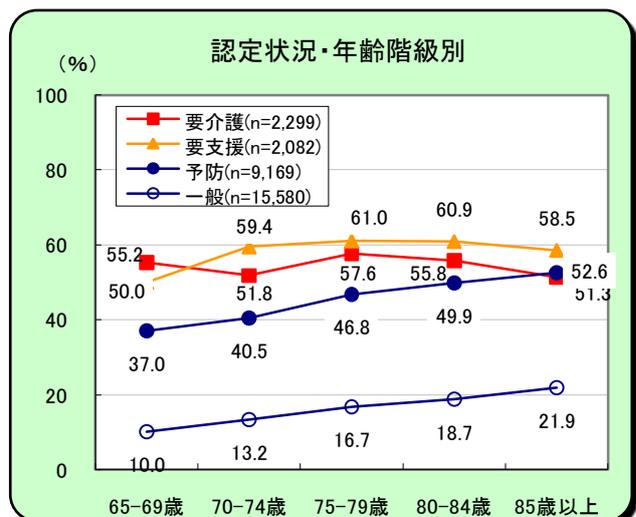
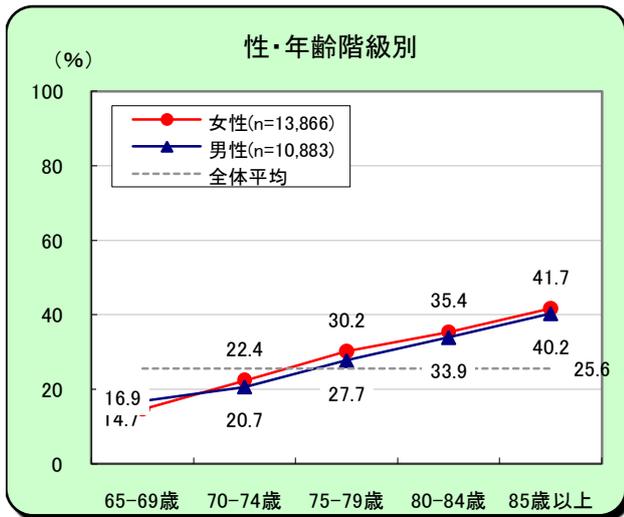
設問(カウントする回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		特異度
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問5-4 5分前のことが思い出せますか (いいえ)	10.2		35.2		(89.8)
	7.7	14.4	21.5	47.9	
問5-5 その日の活動を自分で判断できますか (いくらか困難であるができる~ほとんど判断できない)	12.2		61.1		(87.8)
	5.4	23.9	42.5	78.2	
問5-6 人に自分の考えをうまく伝えられますか (いくらか困難であるが伝えられる~ほとんど伝えられない)	17.3		56.6		(82.7)
	9.7	30.1	42.7	69.4	
問6-6 食事は自分で食べられますか (一部介助があればできる、できない)	1.1		22.0		(98.9)
	0.2	2.5	7.8	34.9	

(7) うつ予防

① 該当状況

- 基本チェックリストにおけるうつ予防の該当状況をみると、認定者を除く全体で25.6%（男性24.6%、女性26.4%）となっており、年齢が上がるほど該当者割合が高くなっているものの、男女差は比較的小さくなっている。
- 認定状況別にみると、一般高齢者14.1%、二次予防対象者45.6%、要支援認定者59.5%、要介護認定者53.7%と、要支援認定者のほうが要介護認定者より該当者割合が高くなっているが、これは要介護認定者の一部無回答による不明が要支援認定者より10ポイント以上高いことが影響しているものと考えられる。
- うつ予防についても、二次予防対象者と要支援認定者で該当者割合に大きな開きはみられない。

図表 該当者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



※認定者を除く。

② 回答状況

- 設問に対する回答結果をみると、認定者の該当率は43.8%~63.2%、非認定者の非該当率は71.3%~86.9%で、高齢者の生活機能のレベルと関連する指標として有効なことがうかがえる。一般高齢者と二次予防対象者で該当率に比較的大きな差があることが特徴的になっている。
- 関連する設問として主観的健康感についてみると、認定者では「(あまり)健康でない」との回答が67.3%（不健康群）、非認定者で「(とても・まあまあ)健康である」との回答が75.4%（健康群）となっている。

図表 回答結果

単位: %

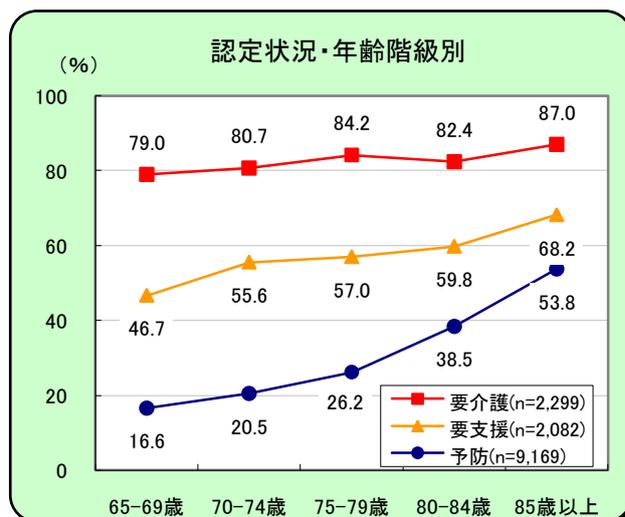
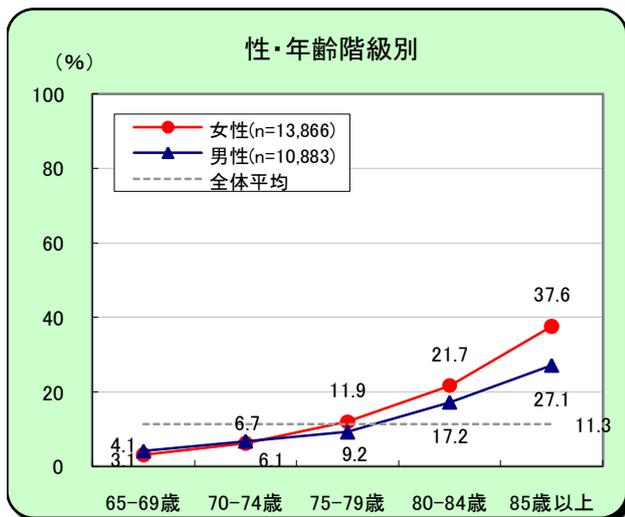
設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		特異度
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問8-7 (ここ2週間)毎日の生活に充実感がない (はい)	16.6	9.6	47.2	44.4	(83.4)
		28.7		50.0	
問8-8 (ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめな	13.1	5.6	43.8	40.2	(86.9)
		26.2		47.4	
問8-9 (ここ2週間)以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる (はい)	26.8	14.3	63.2	63.4	(73.2)
		48.3		62.9	
問8-10 (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない (はい)	20.2	13.2	50.9	48.0	(79.8)
		32.2		53.8	
問8-11 (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする (はい)	28.7	16.7	58.3	58.7	(71.3)
		49.3		57.9	
<関連設問>					
問8-1 普段、ご自分で健康だと思いますか (あまり健康でない、健康でない)	24.6	12.9	67.3	66.4	(75.4)
		44.5		68.2	

(8) 虚弱

① 該当状況

- 基本チェックリストで、うつ予防に関する5項目を除いた20項目中、10項目以上が該当した場合、二次予防該当者となる（虚弱）。
- この該当者割合をみると、認定者を除く全体で11.3%（男性9.7%、女性12.6%）で、年齢とともにこの割合が高くなっている。
- 認定状況別にみると、二次予防対象者30.6%、要支援認定者61.0%、要介護認定者84.5%となっている。

図表 該当者割合（性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別）



※認定者を除く。

② 回答状況

- 20項目のうち、他の評価項目に含まれない5項目についてそれぞれの回答結果をみると、一般高齢者、二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者で該当率に顕著な差がみられる。
- 認定者の該当率は66.0%~85.6%、非認定者の非該当率は70.1%~82.7%で、これらの設問が高齢者の生活機能レベルを示す設問として有効なことがわかる。

図表 回答結果

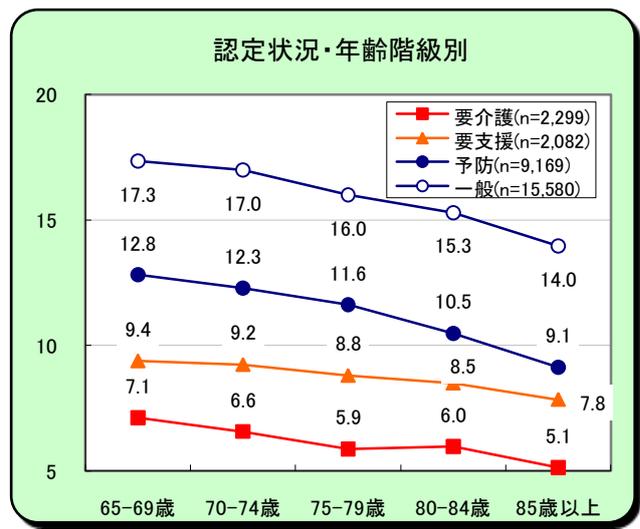
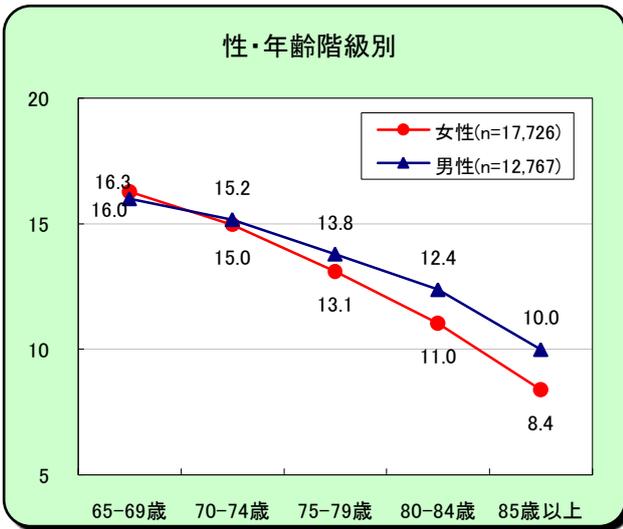
単位: %

設問(該当する回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		特異度
	一般 (n=15,580)	二次予防 (n=9,169)	要支援 (n=2,082)	要介護 (n=2,299)	
問6-1 バスや電車で一人で外出していますか (「できるけどしていない」または「できない」)	24.5		85.6		75.5
	15.2	40.2	75.2	94.9	
問6-2 日用品の買物をしていますか (「できるけどしていない」または「できない」)	18.0		77.9		82.0
	10.4	30.9	62.5	91.6	
問6-5 預貯金の出し入れをしていますか (「できるけどしていない」または「できない」)	22.1		70.2		77.9
	17.0	30.7	49.5	89.0	
問7-5 友人の家を訪ねていますか (いいえ)	29.9		79.9		70.1
	22.1	43.3	69.2	89.6	
問7-6 家族や友人の相談にのっていますか (いいえ)	17.3		66.0		82.7
	11.0	28.0	51.1	79.4	

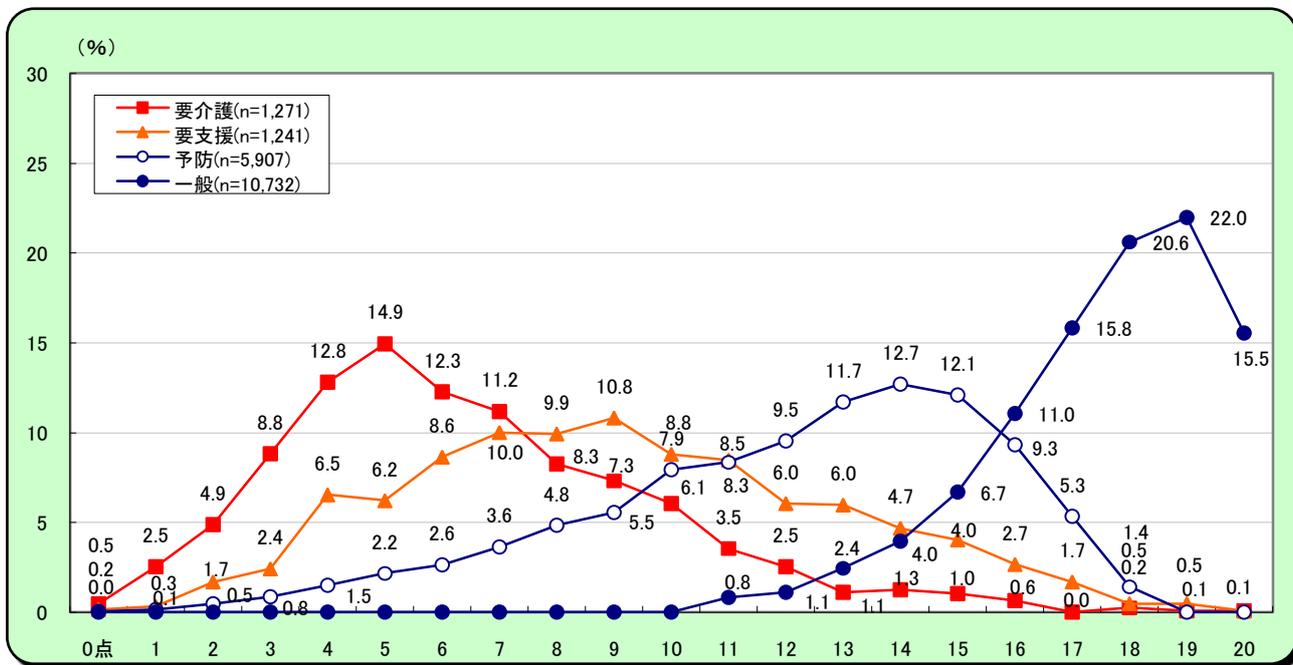
③基本チェックリスト得点

- この基本チェックリスト20項目について、それぞれ該当しない回答をした場合を1点として、その合計得点の平均を求めたのが下の図表となっている。男女とも年齢が上がるほど平均得点が下がっているが、女性のほうがその低下幅が大きくなっている。
- 認定状況別に見ると、最も高いのが一般高齢者で、次いで二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順で、それぞれの生活機能のレベルを反映した結果となっている。
- 20項目すべてに回答のあった者のこの得点の相対度数分布をみると、要介護認定者で4点、要支援認定者9点、二次予防対象者14点、一般高齢者19点がそれぞれ分布のピークになっている。

図表 基本チェックリスト平均得点



図表 基本チェックリスト得点の相対度数分布

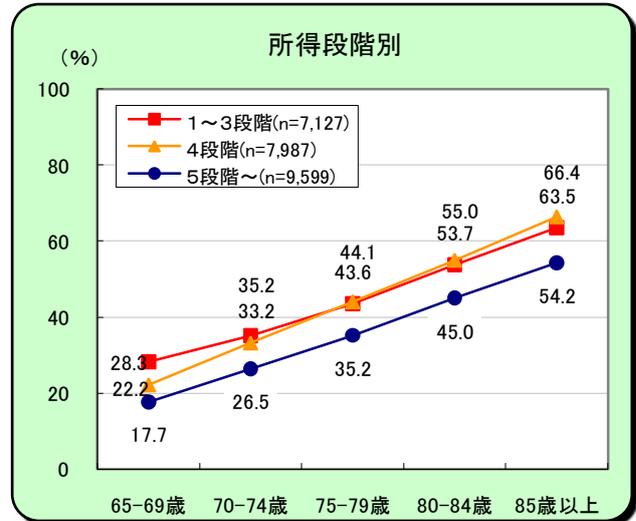
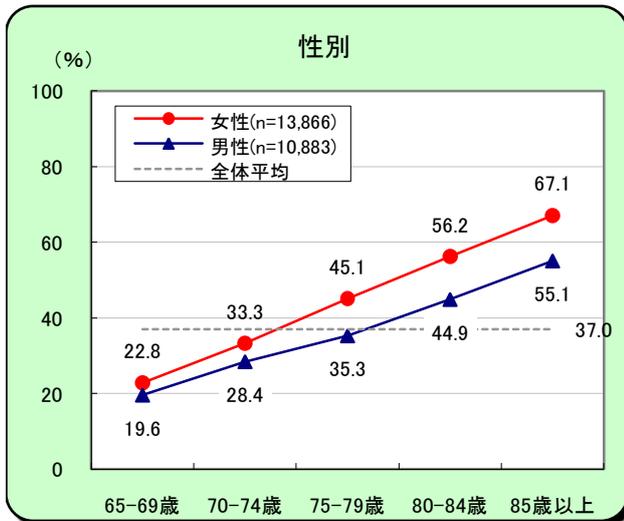


(9) 二次予防対象者

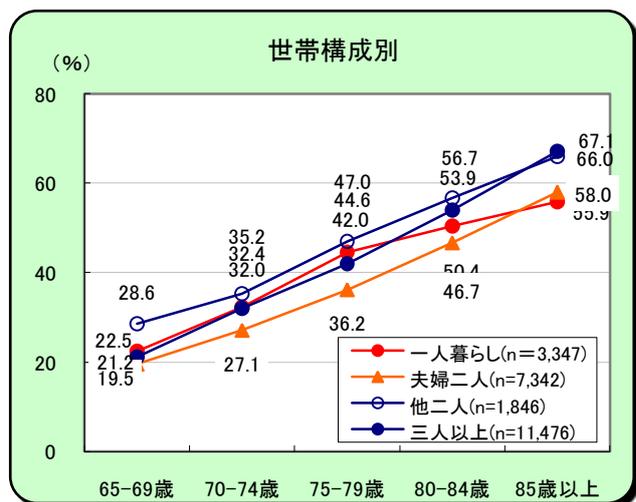
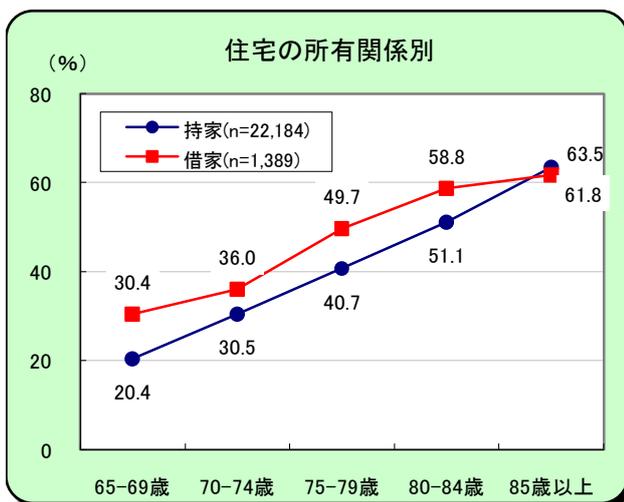
① 該当状況

- 二次予防対象者については、運動、口腔など、複数の評価項目で重複して該当している場合があるため、こうした重複を除いて該当者割合を求めたのが下の図表となっている。
- 該当者割合は、認定者を除く全体で37.0%（男性32.2%、女性40.9%）で、女性のほうが高くまた年齢が上がるほどその差が開く傾向がみられる。
- 所得段階別では第5段階以上で、住宅の所有関係別では持家で、世帯構成別では夫婦二人暮らしで、それぞれ該当者割合が低くなっており、こうした属性をもつ高齢者では比較的生活機能が高い高齢者が多いことがうかがえる。
- 逆に所得段階が第4段階以下、借家、配偶者以外と二人暮らしといった高齢者では生活機能の低下している高齢者が多いことがうかがえる。

図表 該当者割合(性別、所得段階別、世帯構成別、住宅の所有関係別)



※認定者を除く。



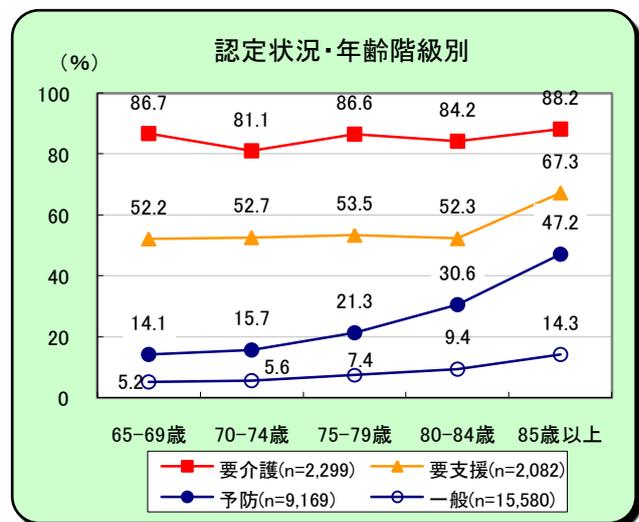
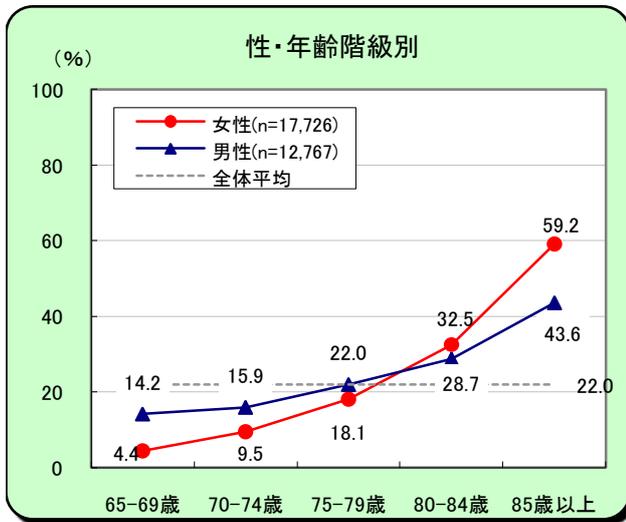
2 日常生活

(1) 手段的自立度(IADL)

① 評価結果

- 本調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられている(問6-1~5、問7-1~6・8・9)。
- このうち、手段的自立度(IADL)については、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価している。
- 4点以下を低下者とした評価結果をみると、70歳代までは男性のほうが低下者割合が高くなっているが、80歳以上では逆に女性のほうが高くなっている。
- 認定状況別にみると、やはり最も低下者割合が最も高いのは要介護認定者で、次いで要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順となっている。

図表 低下者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



② 回答状況

- 評価の基礎となっている5項目についてそれぞれの回答結果をみると、一般高齢者、二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者でその回答結果に顕著な差がみられる。
- 非認定者の得点カウントする選択肢を選んだ割合(カウント率)は91.5%~95.5%、非認定者のカウント率は25.4%~49.2%で、これらの設問が高齢者の生活機能レベルの指標として有効なことがうかがえる。
- 老研指標は本人ができるかどうかという能力に関する設問であるが、一部設問内容が重複する基本チェックリストは実行状況に関する設問になっている(問6-1・2・5が重複)。手段的自立度に関する設問で能力と実行状況の差をみると、食事の用意について非認定者でその差が25.0%と比較的大きくなっている。

図表 回答結果

単位: %

設問(得点カウントする回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		差
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問6-1 バスや電車で一人で外出していますか (「できるし、している」または「できるけどしていない」)	91.5	81.1	25.4	11.8	66.1
問6-2 日用品の買物をしていますか (「できるし、している」または「できるけどしていない」)	95.2	88.5	37.8	19.4	57.4
問6-3 自分で食事の用意をしていますか (「できるし、している」または「できるけどしていない」)	91.5	85.0	40.1	18.7	51.4
問6-4 請求書の支払いをしていますか (「できるし、している」または「できるけどしていない」)	95.5	90.0	49.2	25.9	46.3
問6-5 預貯金の出し入れをしていますか (「できるし、している」または「できるけどしていない」)	94.6	88.8	46.5	24.0	48.1

図表 回答結果(能力と実行状況の差)

単位: %

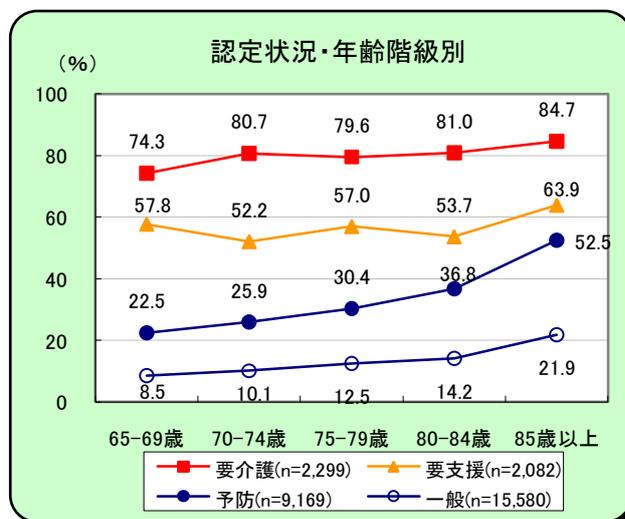
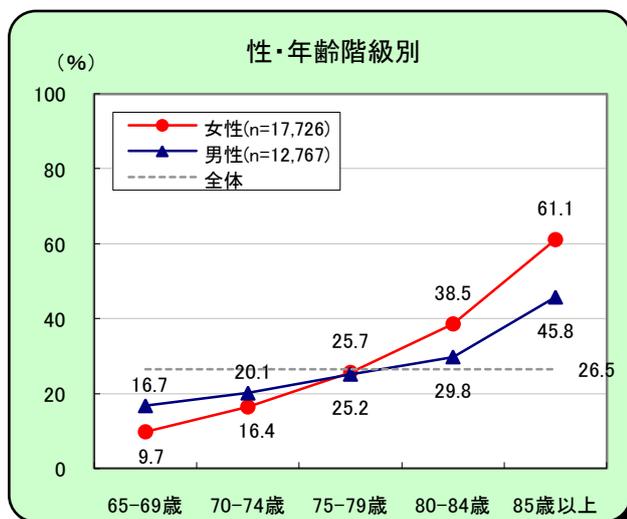
設問(回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)	
	一般 (n=15,580)	二次予防 (n=9,169)	要支援 (n=2,082)	要介護 (n=2,299)
問6-1 バスや電車で一人で外出していますか (できるけどしていない)	15.9		11.0	
	12.8	21.3	15.9	6.7
問6-2 日用品の買物をしていますか (できるけどしていない)	13.1		15.7	
	9.5	19.4	21.0	11.0
問6-3 自分で食事の用意をしていますか (できるけどしていない)	25.0		12.1	
	25.8	23.7	16.9	7.8
問6-4 請求書の支払いをしていますか (できるけどしていない)	15.7		14.6	
	13.9	18.8	18.1	11.6
問6-5 預貯金の出し入れをしていますか (できるけどしていない)	16.6		16.7	
	14.9	19.5	20.7	13.0

(2) 生活機能総合評価

○生活機能低下者割合

- この手段の自立度に、知的能動性、社会的役割を加えた老研指標13項目での評価結果は、以下のとおりとなっている。評価は、13点満点で評価し、11点以上を「高い」、9、10点を「やや低い」、8点以下を「低い」として評価している。
- 10点以下を低下者とした結果をみると、70歳代前半までは男性のほうが低下者割合が高くなっているが、70歳の後半からは逆に女性のほうがその割合が高くなっている。
- 認定状況別にみると、やはり最も低下者割合が最も高いのは要介護認定者で、次いで要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順となっている。

図表 生活機能低下者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



(3) 日常生活動作(ADL)

①設問と評価

- 今回の調査では、認定者が調査対象に含まれていることもあり、日常生活動作（ADL）に関する設問が項目として含まれている。
- 内容としては、食事、移動、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿の10項目で（問6-6～16）、ADL評価指標として広く用いられているバーセルインデックスに準じた設問内容となっている。
- 各設問ごとの配点は、バーセルインデックスの評価方法に従って、各設問で自立を5～15点とし10項目の合計が100点満点となるよう評価している。

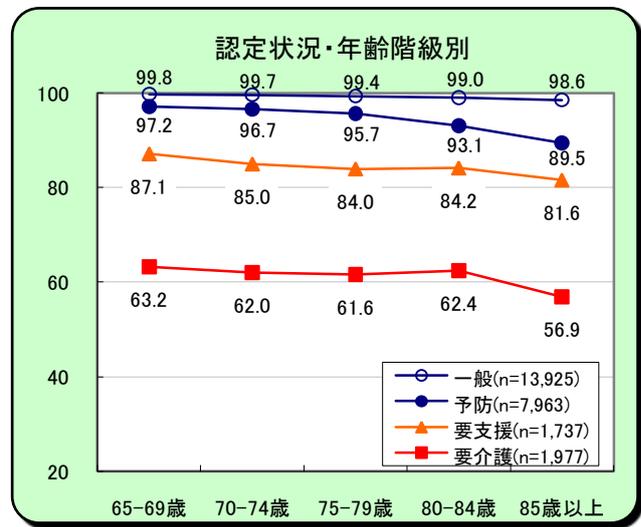
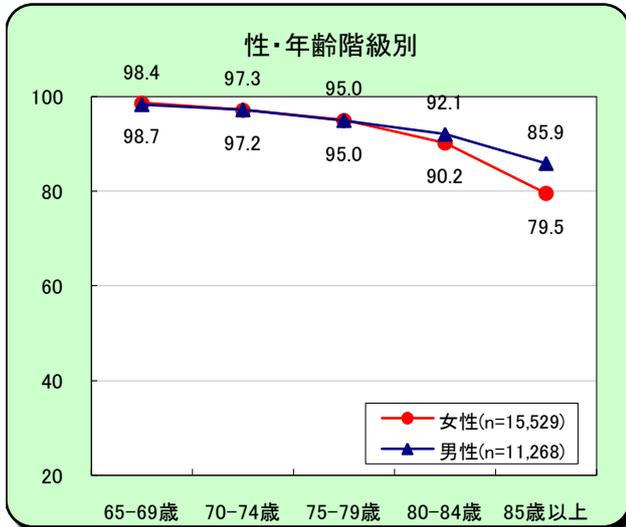
図表 ADLの評価方法

問番号	項目	配点	選択肢
問6-6	食事	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる」 「3. できない」
問6-7	ベッドへの移動	15: 10: 5: 0:	「1. 受けない」 「2. 一部介助があればできる」 「3. 全面的な介助が必要」 （問6-8の回答が「1. できる」「2. 支えが必要」の場合） 「3. 全面的な介助が必要」 （問6-8の回答が「3. できない」の場合）
問6-9	整容	5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助があればできる」または「3. できない」
問6-10	トイレ	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」 「3. できない」
問6-11	入浴	5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」または「3. できない」
問6-12	歩行	15: 10: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」 「3. できない」
問6-13	階段昇降	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 介助があればできる」 「3. できない」
問6-14	着替え	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 介助があればできる」 「3. できない」
問6-15	排便	10: 5: 0:	「1. ない」 「2. ときどきある」 「3. よくある」
問6-16	排尿	10: 5: 0:	「1. ない」 「2. ときどきある」 「3. よくある」

②評価結果

- ADLの合計得点の平均値を、性別、認定状況別にみると、80歳以上、特に女性で平均得点が低下している。
- 認定状況別では、要介護認定者の平均得点が60点前後、要支援認定者が80点台の前半と、認定者で機能低下が顕著になっていることがわかる。70歳代までは一般高齢者と二次予防対象者でADLの平均得点に大きな差がみられない。

図表 ADL平均得点(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

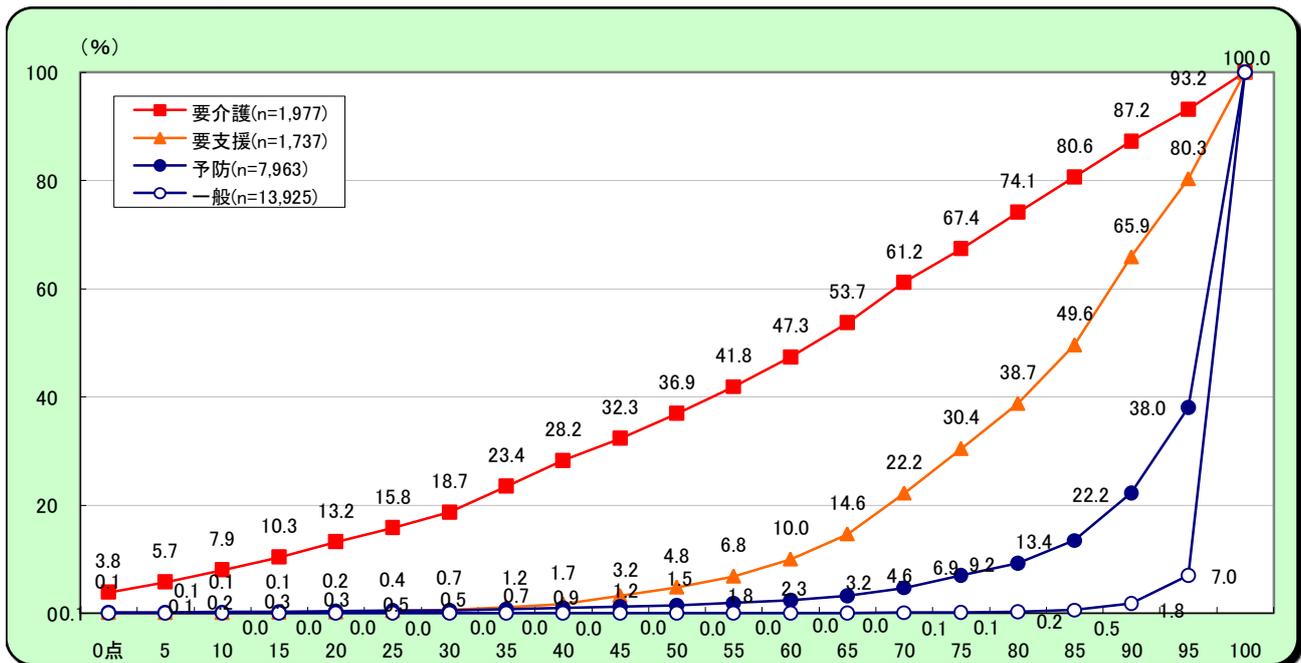


※10問全問に回答のあった者の平均

③ADL得点累積相対度数

- ADL合計得点について、関連する設問すべてに回答のあった者について、認定状況別に累積相対度数をみると、要介護認定者では高得点から低得点まで得点が分散しているため、ほぼ直線状の分布となっている一方、二次予防対象者、一般高齢者では95点以上が過半数を占めるため、L字型の分布となっている。要支援認定者はその中間に位置している。

図表 累積相対度数



※ADLに関連する全設問に回答した者のみ

④回答状況

- ADLに関する各設問に対する回答を認定の有無別にみると、自立の割合の差が大きいのは、階段昇降、歩行、入浴、排尿、排便など、比較的差が小さいのはトイレ動作、食事、整容、ベッドへの移動になっている。
- 比較的軽度の要支援認定者について自立の割合をみると、階段昇降(37.8%)、排尿(54.9%)、歩行(55.1%)などで低くなっており、高齢者ではこうした動作から機能低下が始まっていることがうかがえる。

図表 回答結果

単位：%

設問(自立と評価できる回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		差
	一般 (n=15,580)	二次予防 (n=9,169)	要支援 (n=2,082)	要介護 (n=2,299)	
問6-6 食事は自分で食べられますか (できる)	98.9		78.0		20.9
	99.8	97.5	92.2	65.1	
問6-7 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか (受けない)	98.8		73.3		25.5
	99.8	97.2	91.3	57.0	
問6-8 座っていることができますか (できる)	93.0		66.3		26.7
	97.0	86.2	70.9	62.2	
問6-9 自分で洗面や歯磨きができますか (できる)	99.2		76.5		22.7
	99.9	98.0	94.5	60.0	
問6-10 自分でトイレができますか (できる)	99.4		79.5		19.9
	99.9	98.3	96.5	63.9	
問6-11 自分で入浴ができますか (できる)	98.3		49.0		49.3
	99.8	95.7	72.2	27.9	
問6-12 50m以上歩けますか (できる)	94.7		42.3		52.4
	99.2	86.9	55.1	30.8	
問6-13 階段を昇り降りできますか (できる)	92.0		28.1		64.0
	98.7	80.7	37.8	19.4	
問6-14 自分で着替えができますか (できる)	98.9		69.4		29.5
	99.9	97.1	90.7	50.2	
問6-15 大便の失敗がありますか (ない)	94.8		55.4		39.4
	98.4	88.7	71.9	40.1	
問6-16 小便の失敗がありますか (ない)	88.0		42.2		45.8
	94.9	76.3	54.9	30.2	

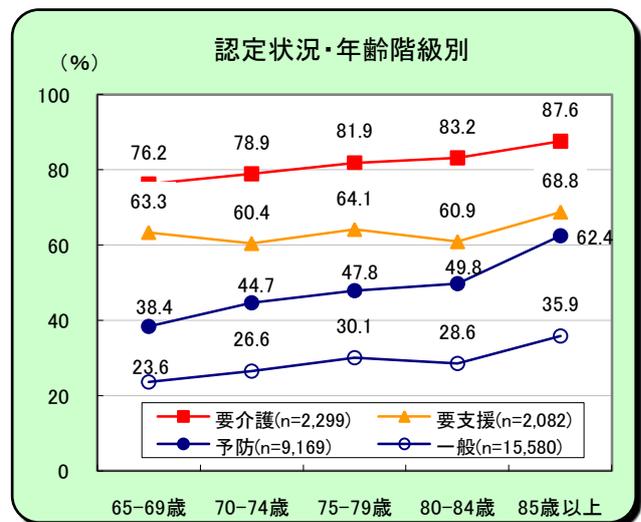
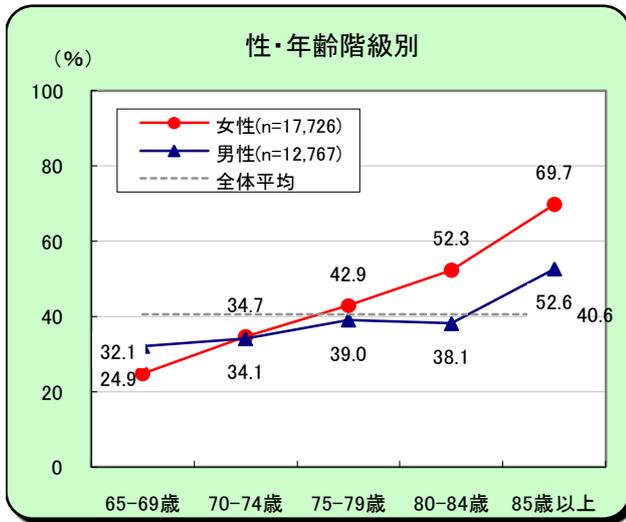
3 社会参加

(1) 知的能動性

① 評価結果

- 老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されている（問7-1～4）。
- 評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価している。
- 3点以下を低下者とした評価結果をみると、60歳代までは男性のほうが低下者割合が高くなっているものの、70歳以上では逆に女性のほうが高くなっている。
- 認定状況別にみると、やはり最も低下者割合が最も高いのは要介護認定者で、次いで要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順となっている。

図表 低下者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



② 回答状況

- 評価の基礎となっている4項目についてそれぞれの回答結果をみると、一般高齢者、二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者でその回答結果に顕著な差がみられる。
- 非認定者のカウント率は71.7%~89.1%、非認定者のカウント率は32.0%~57.2%で、これらの設問が高齢者の生活機能レベルの指標として有効なことがうかがえる。

図表 回答結果

単位: %

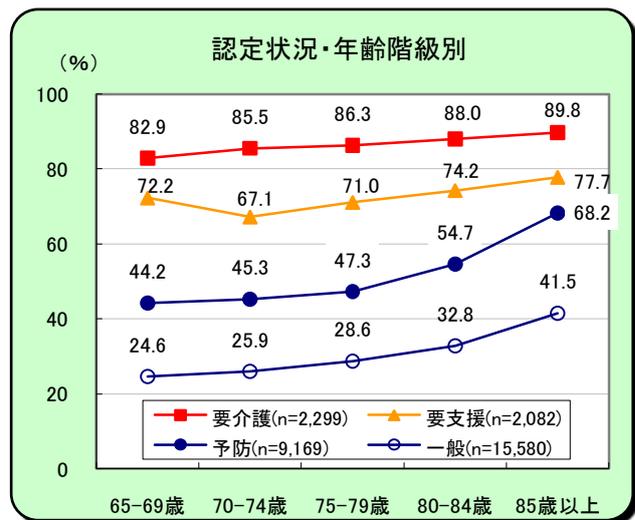
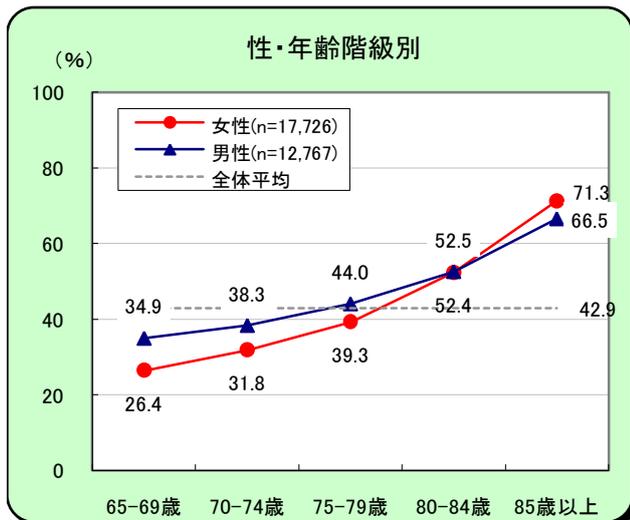
設問(得点カウントする回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		差
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問7-1 年金などの書類が書けますか (はい)	85.3	73.1	32.0	15.4	53.3
問7-2 新聞を読んでいますか (はい)	92.4	78.3	50.5	38.1	34.9
問7-3 本や雑誌を読んでいますか (はい)	71.7	59.4	35.3	24.5	36.4
問7-4 健康についての記事や番組に関心がありますか (はい)	89.1	84.8	57.2	38.7	31.9

(2) 社会的役割

① 評価結果

- 老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されている（問7-7～10）。
- 評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価している。
- 3点以下を低下者とした評価結果をみると、総じて男性のほうが低下者割合が高くなっている。
- 認定状況別にみると、やはり最も低下者割合が最も高いのは要介護認定者で、次いで要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順となっている。

図表 低下者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



② 回答状況

- 評価の基礎となっている4項目の回答結果をみると、知的能動性と同様、一般高齢者、二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者でその回答結果に顕著な差がみられる。
- 非認定者のカウント率は70.1%~92.0%、認定者のカウント率は20.1%~49.3%で、これらの設問も高齢者の生活機能レベルの指標として有効なことがうかがえる。

図表 回答結果

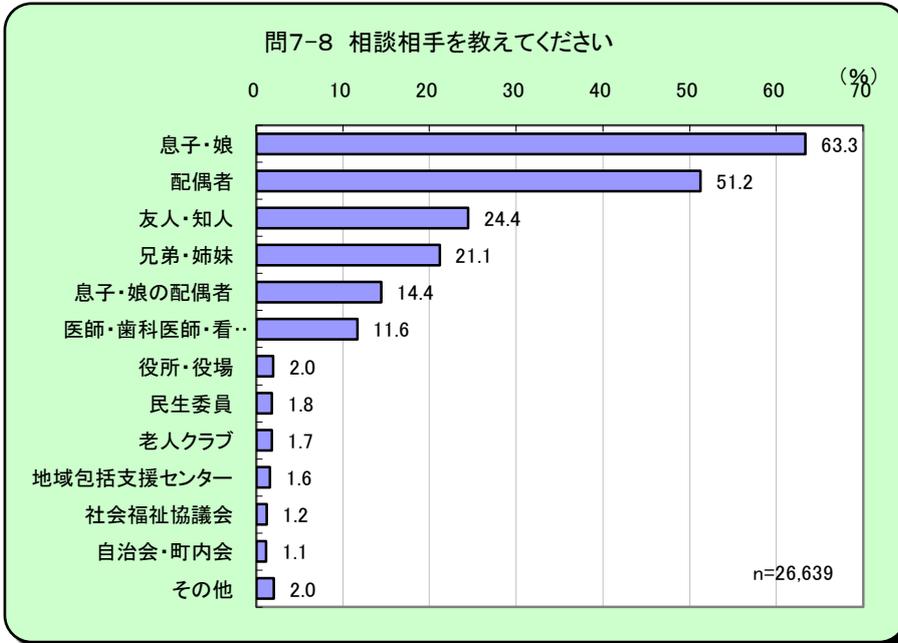
単位: %

設問(カウントする回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		差
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問7-5 友人の家を訪ねていますか (はい)	70.1		20.1		50.0
	77.9	56.7	30.8	10.4	
問7-6 家族や友人の相談にのっていますか (はい)	82.7		34.0		48.7
	89.0	72.0	48.9	20.6	
問7-9 病人を見舞うことができますか (はい)	92.0		34.9		57.1
	97.2	83.2	50.8	20.7	
問7-10 若い人に自分から話しかけることがありますか (はい)	83.2		49.3		33.9
	88.4	74.3	59.5	40.1	
<関連設問>					
問7-7 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談していますか (はい)	92.6		74.6		18.0
	94.3	89.6	86.7	63.4	
問7-11 ボランティア活動をしていますか (はい)	23.0		2.1		20.9
	28.1	14.3	3.2	1.1	

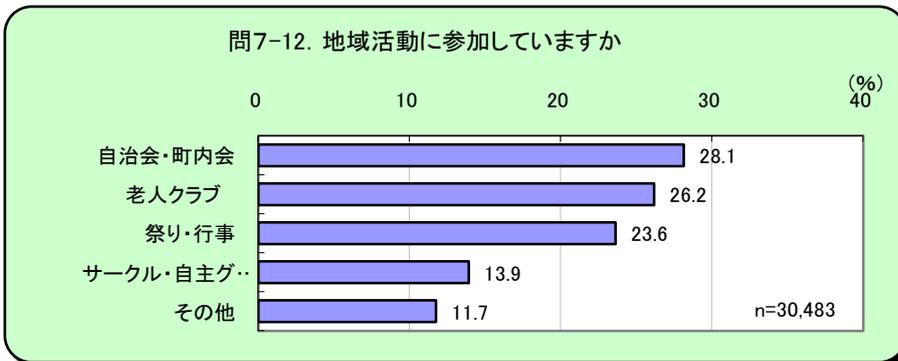
③相談相手・地域活動

- 高齢者の相談相手を、「問7-7 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか」との設問に「はい」と回答した者についてみると、「息子・娘」（63.3%）が最も多く、次いで「配偶者」（51.2%）「知人・友人」（24.4%）、「兄弟・姉妹」（21.1%）の順となっている。
- 参加している地域活動としては、「自治会・町内会」（28.1%）、「老人クラブ」（26.2%）、「祭り・行事」（23.6%）への参加が多くなっている。

図表 相談相手



図表 参加している地域活動



V 健康・疾病

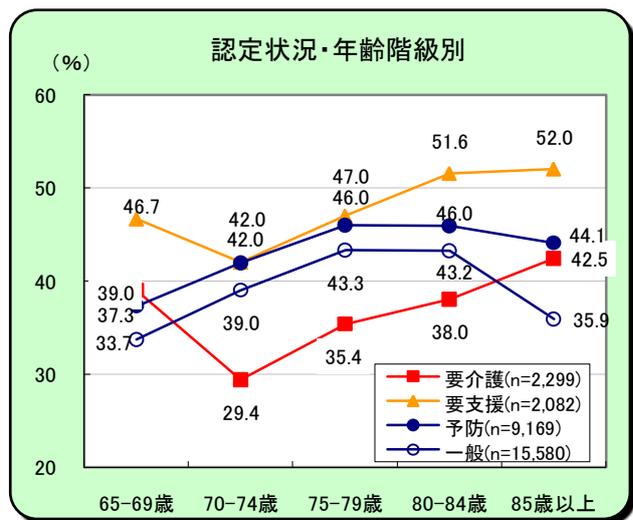
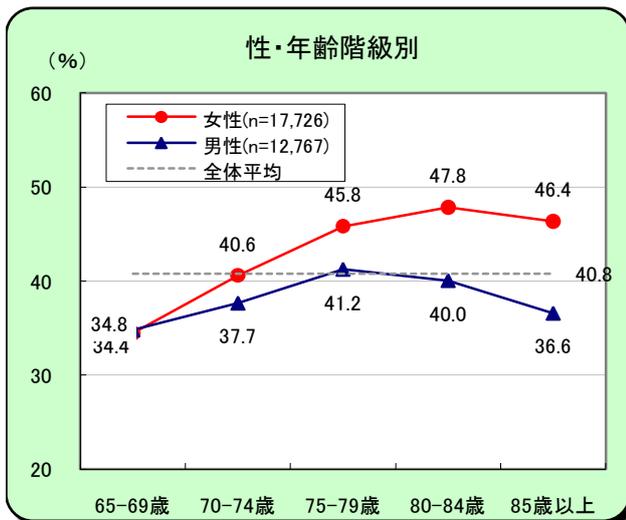
1 疾病

(1) 高血圧

○有病率

- 現在治療中とする病気で最も多いのは、「高血圧」（全体40.8%、男性38.0%、女性42.7%）で、男性より女性で、また年齢が高いほど多くなっている。
- 認定状況別にみると、調査への回答から求めた「高血圧」の有病率が最も高いのは、要支援認定者（49.6%）で、次いで二次予防対象者（43.6%）、要介護認定者（38.8%）、一般高齢者（38.6%）の順になっている。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

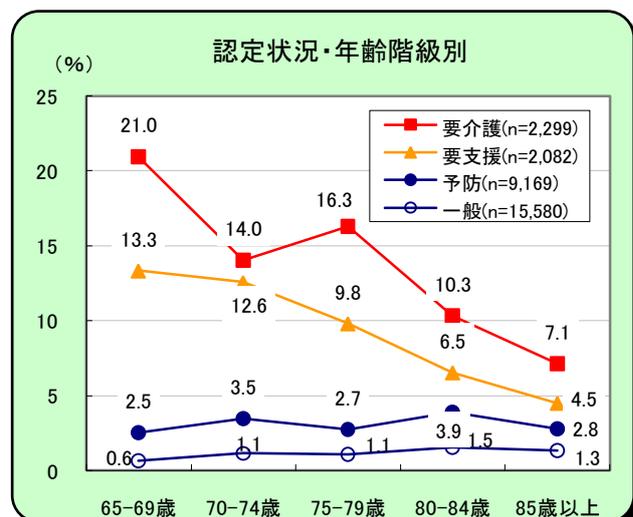
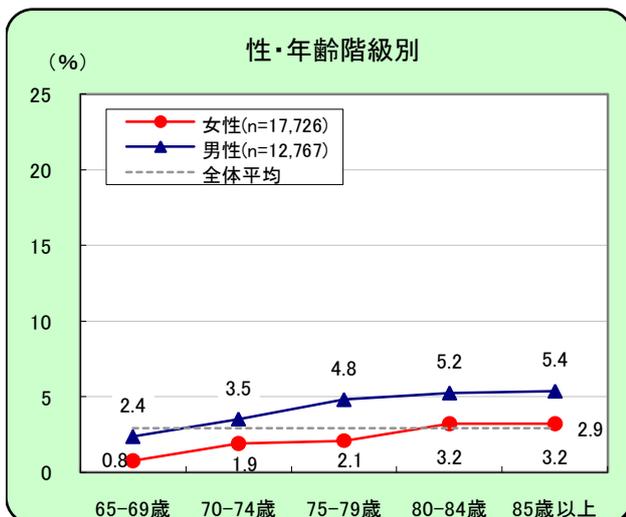


(2) 脳卒中

○有病率

- 要介護の主原因となる「脳卒中」について、現在治療中とする割合(有病率)は、全体で2.9%（男性4.0%、女性2.2%）となっており、女性より男性で、また年齢が高くなるほど多くなっている。
- 認定状況別にみると、有病率が最も高いのは要介護認定者（10.7%）、次いで要支援認定者（7.4%）、二次予防対象者（3.1%）、一般高齢者（1.0%）の順となっている。
- 非認定者では、年齢が上がっても有病率は横ばい傾向を示している一方、認定者では年齢とともに有病率が顕著に下がっている。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

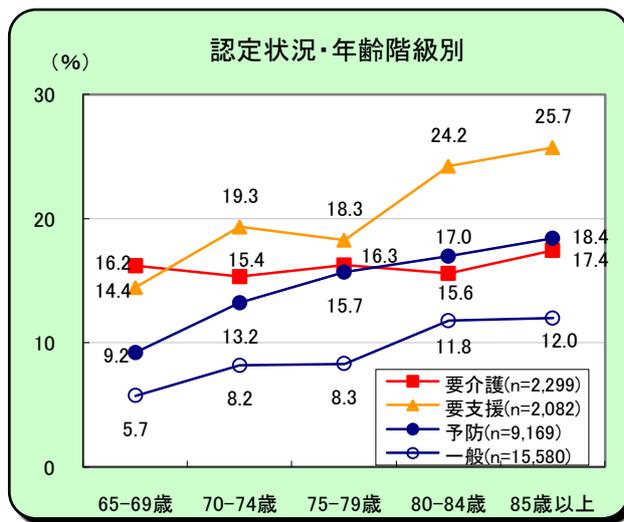
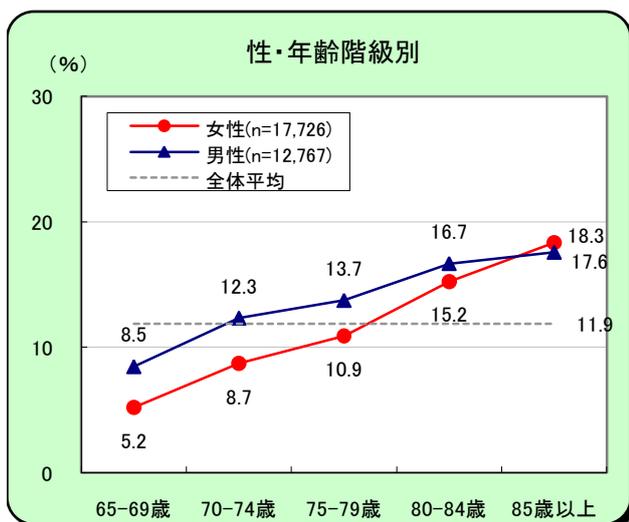


(3) 心臓病

○有病率

- 内蔵疾患で要介護の原因となる「心臓病」についてみると、有病率は全体で11.9%（男性12.9%女性11.1%）となっており、女性より男性で多くなっている。
- 認定状況別に見ると、有病率が最も高いのは要支援認定者（22.5%）、次いで要介護認定者（16.5%）、二次予防対象者（14.9%）、一般高齢者（8.1%）の順となっている。これを年齢別にみると、全体としては年齢とともに有病率が高くなっているが、要介護認定者では年齢によって有病率にほとんど変化がみられない。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

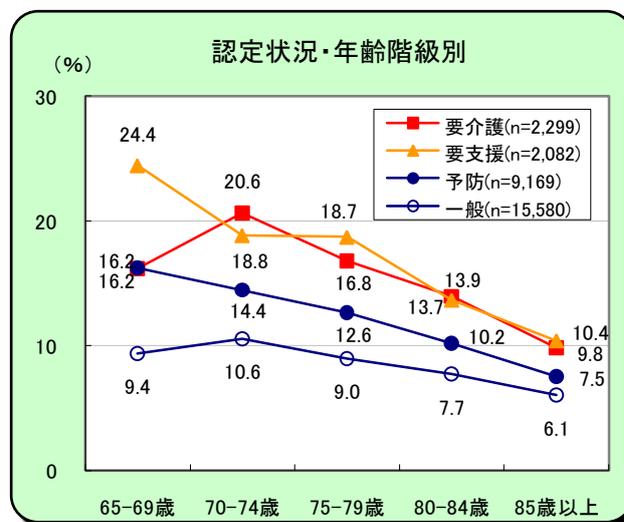
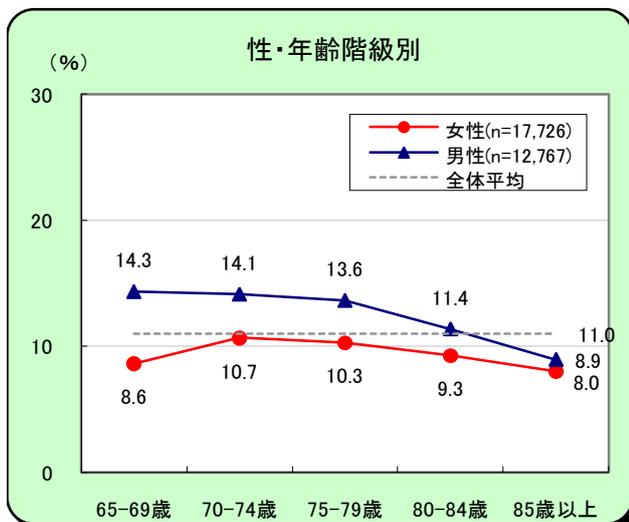


(4) 糖尿病

○有病率

- 同じく内蔵疾患で要介護の原因となる「糖尿病」についてみると、有病率は全体で11.0%（男性13.1%、女性9.5%）となっており、やはり女性より男性で多くなっている。年齢別にみると全体として年齢が高いほうが有病率は低くなる傾向がみられる。
- 認定状況別に見ると、有病率が最も高いのは要支援認定者（14.6%）、次いで要介護認定者（13.4%）、二次予防対象者（12.2%）、一般高齢者（9.2%）の順となっている。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

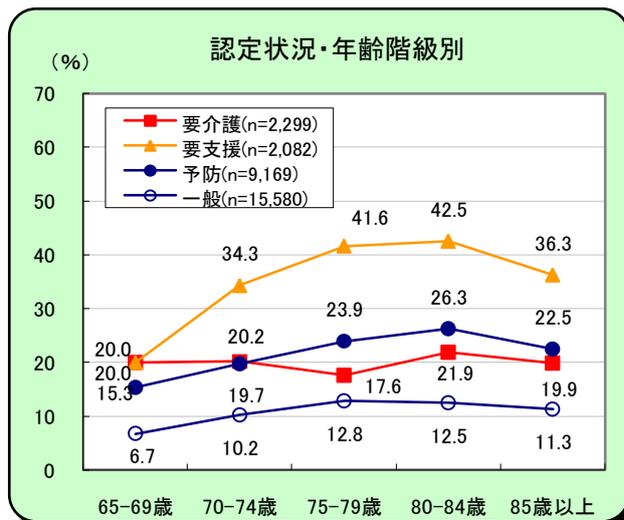
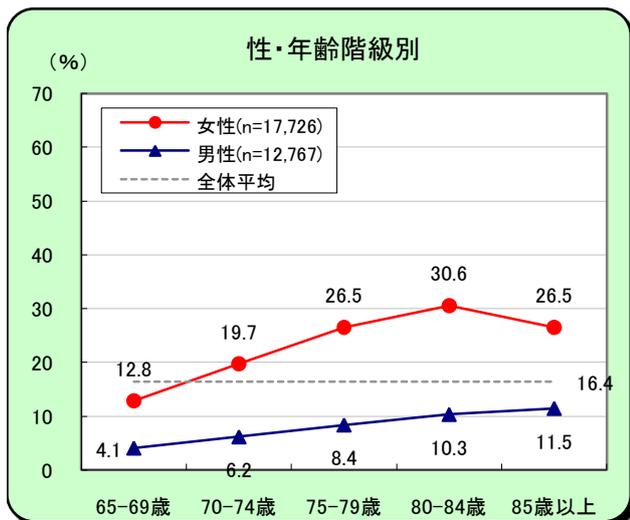


(5) 筋骨格系疾患

○有病率

- 要介護原因となる関節リュウマチを含む「筋骨格系」疾患の有病率をみると、全体では16.4%（男性7.3%、女性22.9%）となっており、男性より女性で、また年齢が上がるほど高くなっている。
- 認定状況別にみると、有病率が最も高いのは要支援認定者（38.5%）、次いで二次予防対象者（22.1%）、要介護認定者（20.0%）、一般高齢者（10.0%）の順となっている。これを年齢別にみると、全体としては年齢とともに有病率が高くなっているが、要介護認定者では年齢によって有病率にほとんど変化がみられない。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

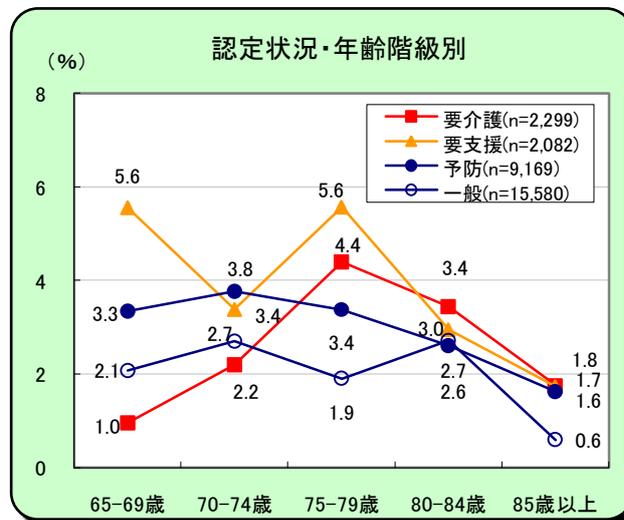
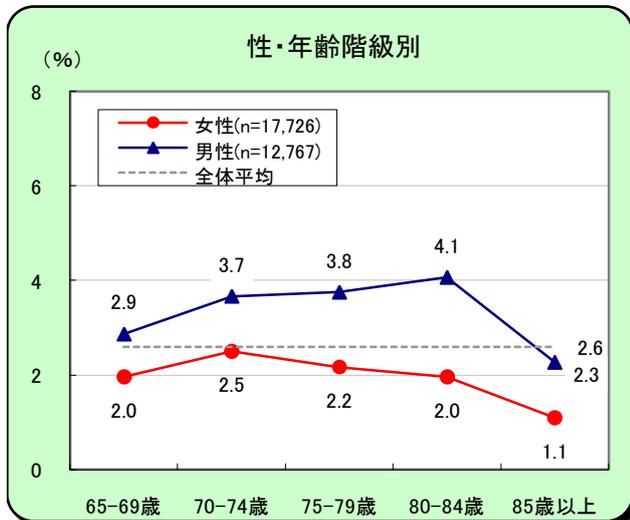


(6) がん

○有病率

- やはり要介護原因にもなる「がん（新生物）」の有病率をみると、全体で2.6%（男性3.4%、女性2.0%）となっており、女性より男性に多く、また70歳以上では年齢が上がるほど有病率が低くなっている。
- 認定状況別にみると、有病率が最も高いのは要支援認定者（3.3%）、次いで二次予防対象者（3.0%）、要介護認定者（2.6%）、一般高齢者（2.2%）の順となっている。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

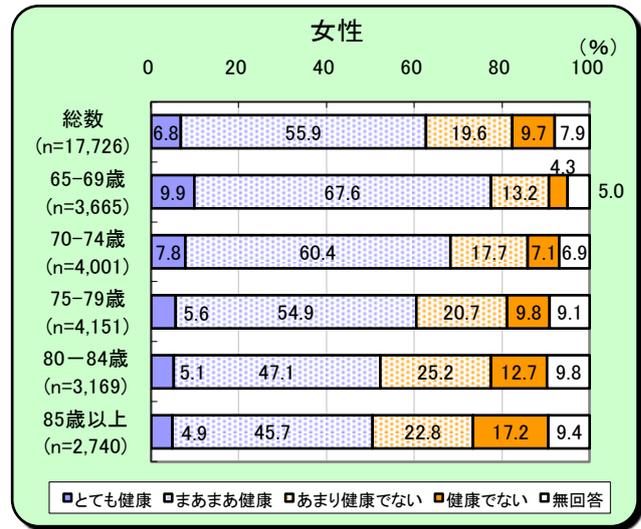
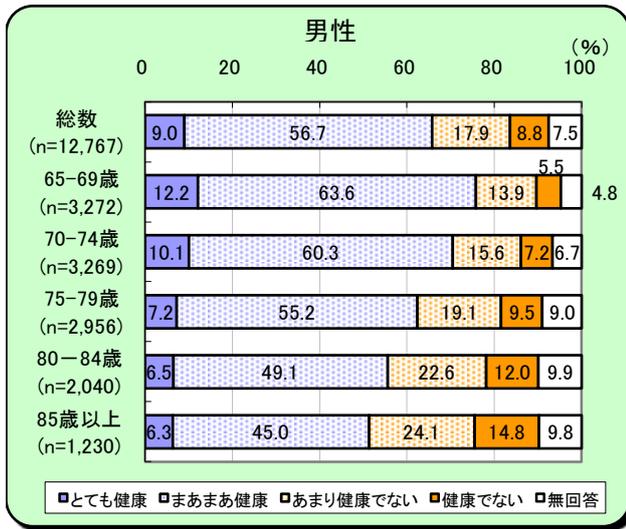


2 主観的健康感

①回答結果

- 高齢者のQOL（生活の質）の指標ともなっている主観的健康感に関する回答結果をみると、全体では「（まあまあ・とても）健康」とする肯定的な回答（健康群）が64.0%、「（あまり）健康でない」とする否定的回答（不健康群）が28.2%となっている。
- これを性別にみると、男性で「とても健康」とする回答が女性より2.2ポイント高くなっており、逆に「（あまり）健康でない」とする不健康群が2.6ポイント低くなっている。

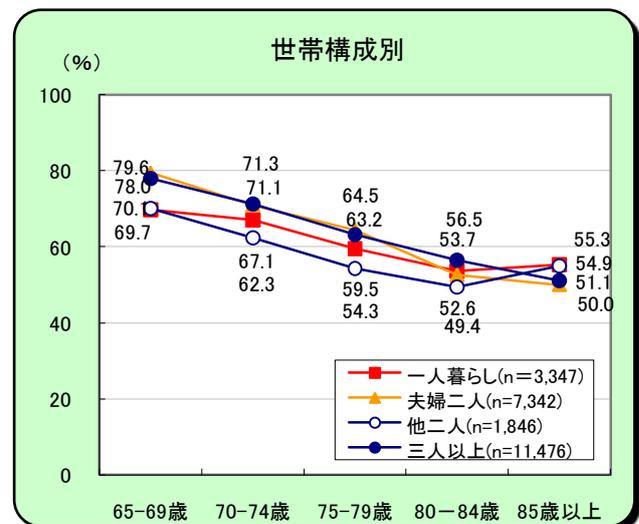
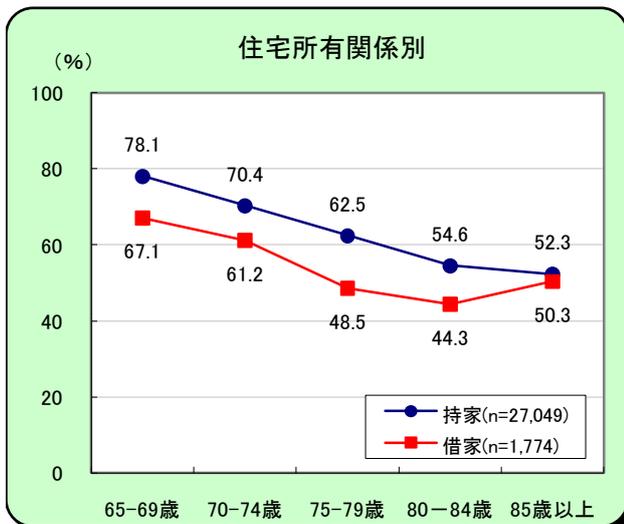
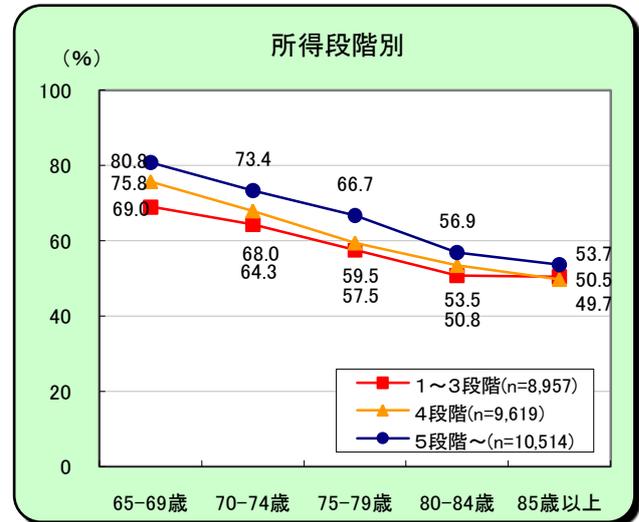
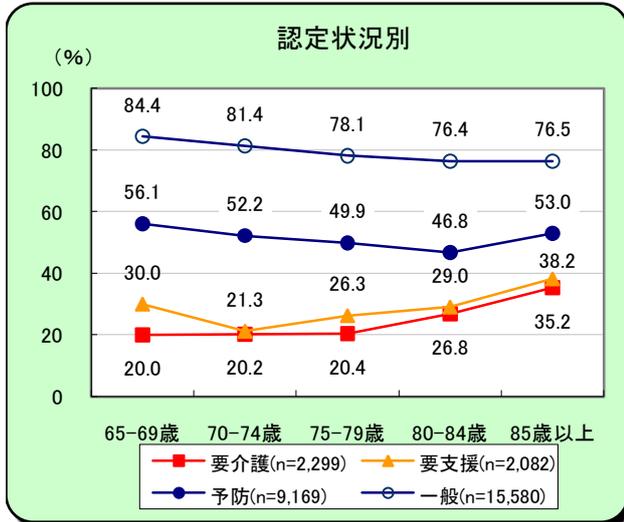
図表 回答結果(性・年齢階級別)



②属性別の状況

- 主観的健康感について肯定的な回答をした健康群の割合を認定状況別にみると、やはり一般高齢者が80.8%で最も高く、次いで二次予防対象者(51.1%)、要支援認定者(30.8%)、要介護認定者(28.5%)の順となっている。要介護認定者、要支援認定者でほとんど差がないことが特徴的といえる。
- 所得段階別では第5段階以上で、住宅の所有関係別では持家で、世帯構成別では夫婦二人暮らしや三人以上で同居の世帯で、それぞれ健康群の割合が高くなっている。

図表 健康群の割合(認定状況、所得段階、住宅所有関係、世帯構成別)



③関連設問への回答状況

●主観的健康感に関連する各設問に対する回答（肯定的な回答の割合）を、健康群と不健康群別にみると、両者で差が大きいのは、問8-9・11、問8-3などとなっており、抑うつ感や服薬状況が主観的健康感と関連していることがうかがえる。

表 関連設問への回答結果

単位：%

設問(肯定的な回答)	健康群(n=19,515)		不健康群(n=8,613)		差
	とても健康 (n=2,358)	まあまあ健康 (n=17,157)	あまり健康でない (n=5,766)	健康でない (n=2,847)	
問1-8 現在の暮らしの状況を総合的にみてどう感じますか (ややゆとりがある、ゆとりがある)	41.9		27.7		14.3
	52.0	40.6	29.3	24.4	
問1-9 現在、収入のある仕事をしていますか (はい)	21.2		7.7		13.6
	30.2	20.0	9.4	4.2	
問7-4 健康についての記事や番組に関心がありますか (はい)	88.9		75.3		13.6
	90.0	88.8	80.7	64.4	
問8-3 現在、何種類の薬を飲んでいますか (3種類以下)	75.3		37.1		38.3
	90.5	73.3	41.9	27.2	
問8-4 現在、病院・医院(診療所(クリニック))に通院していますか	24.6		6.9		17.7
	47.3	21.5	6.9	6.8	
問8-7 (ここ2週間)毎日の生活に充実感がない (いいえ)	88.9		56.9		32.0
	92.6	88.3	64.8	40.1	
問8-8 (ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめな	92.5		60.3		32.2
	96.9	91.9	68.6	42.4	
問8-9 (ここ2週間)以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる (いいえ)	81.1		39.7		41.4
	93.1	79.4	46.0	26.2	
問8-10 (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない (いいえ)	84.8		55.5		29.2
	89.8	84.1	62.7	40.3	
問8-11 (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする (いいえ)	80.1		39.2		40.9
	92.8	78.3	45.1	26.7	

VI 介護

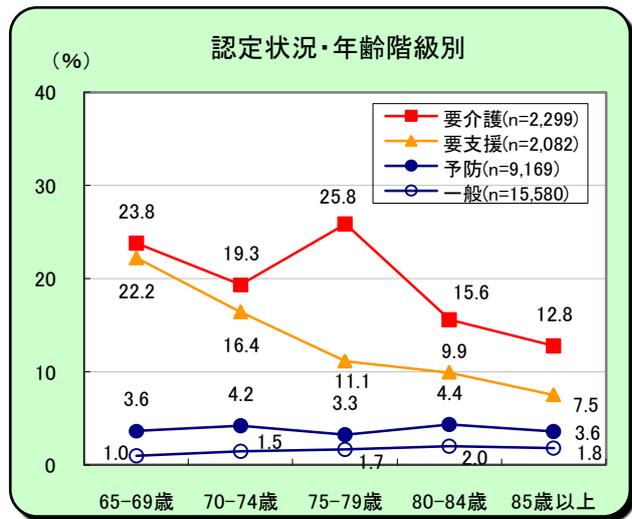
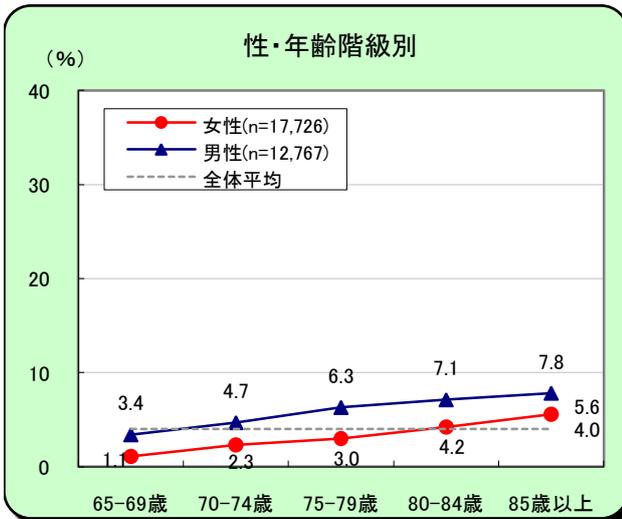
1 既往症

(1) 脳卒中

○既往率

- 要介護原因で最も多い「脳卒中」について、「これまでにかかった」とする回答の割合（既往率）をみると、全体で4.0%（男性5.4%、女性3.1%）と、やはり男性のほうが女性より、また年齢が上がるほど高くなっている。
- 認定状況別にみると、既往率が最も高いのはやはり要介護認定者（16.8%）で、次いで要支援認定者（10.6%）、二次予防対象者（3.8%）、一般高齢者（1.4%）の順となっている。

図表 属性別既往率

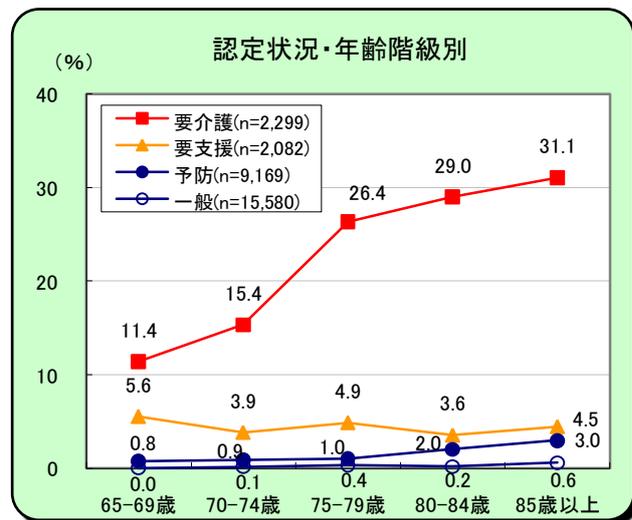
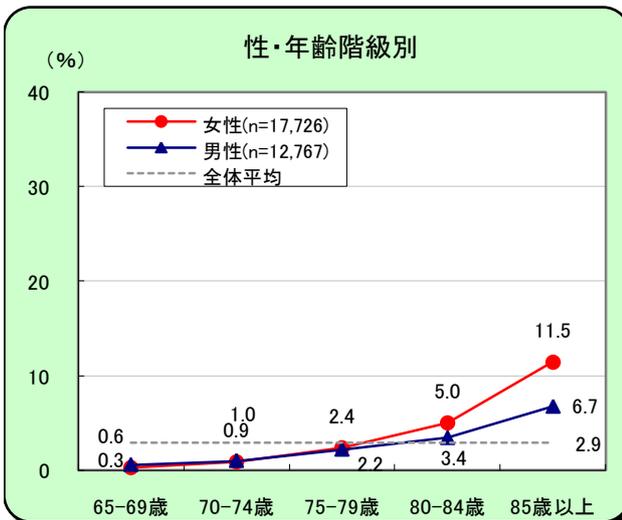


(2) 認知症

図表 既往率

- 同様に要介護原因の上位に位置する「認知症」の既往率をみると、全体で2.9%（男性2.1%、女性3.5%）と、男性より女性のほうが、また年齢が上がるほど既往率が高くなる傾向にある。
- 認定状況別にみると、既往率が最も高いのはやはり要介護認定者（27.3%）で、次いで要支援認定者（4.3%）、二次予防対象者（1.4%）、一般高齢者（0.2%）の順となっている。
- 要介護認定者では、年齢が上がるに従って既往率が急激に高くなっており、年齢が上がるとともに認知症を要介護の原因とする認定者の割合が増えていることがわかる。

図表 属性別既往率

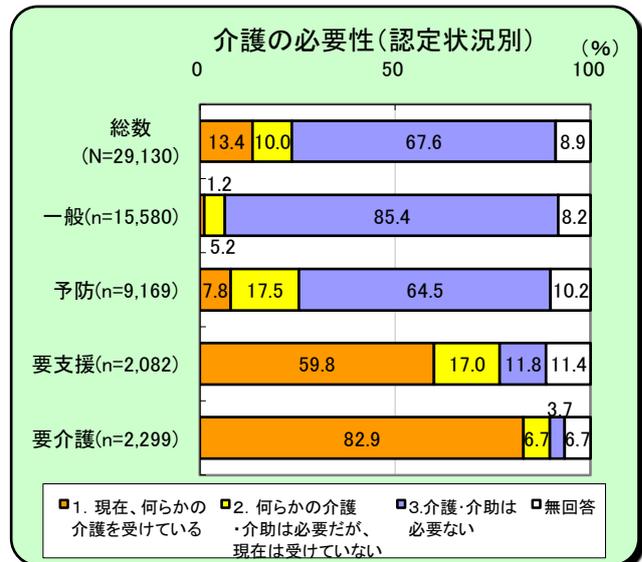
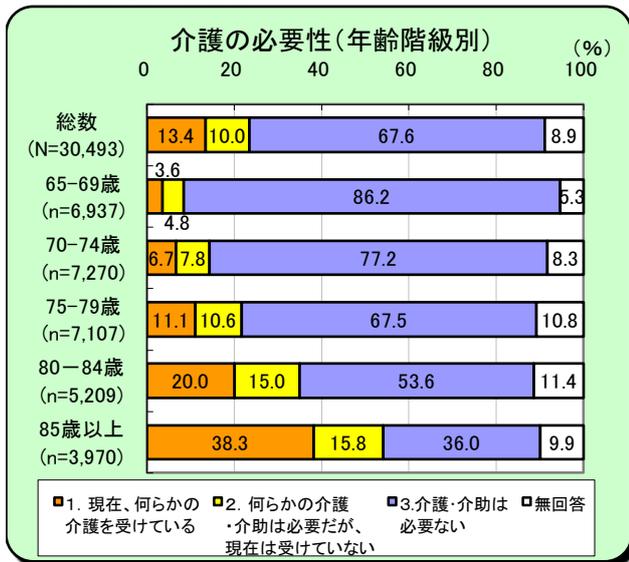


2 介護の状況

(1) 介護の必要性

- 介護の必要性に関する設問（問1-3）に対する回答をみると、年齢が上がるほど「介護を受けている」「必要だが現在は受けていない」の割合が高くなっている。
- これを認定状況別にみると、要介護認定者の82.9%、要支援認定者の59.8%が「介護を受けている」と回答している一方、二次予防対象者では7.8%が「介護を受けている」、また17.5%が「必要だが現在は受けていない」と回答している。

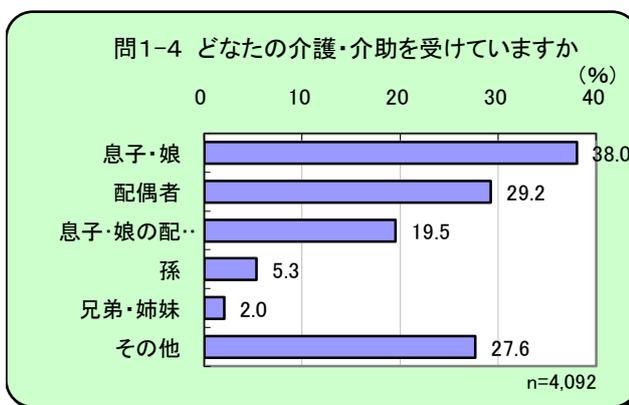
図表 介護の必要性



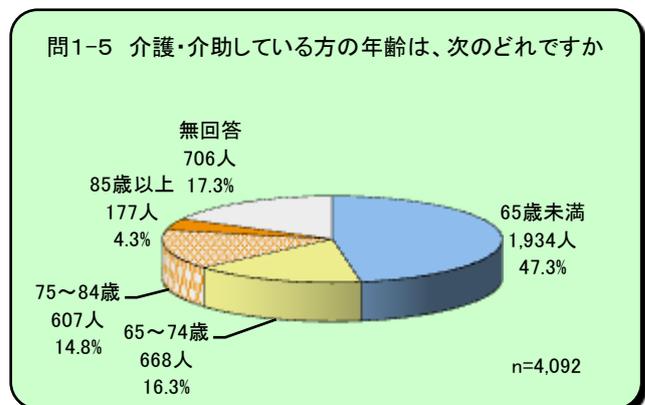
(2) 介護者

- 問1-3で「介護を受けている」と回答した者の介護者は、「息子・娘」(38.0%)、「配偶者」(29.2%)、「息子・娘の配偶者」(19.5%)が比較的多くなっている。
- 介護者の年齢は、半数近くの47.3%が「65歳未満」で最も多く、次いで「65~74歳」(16.3%)「75~84歳」(14.8%)、「85歳以上」(4.3%)となっている。いわゆる老老介護が全体のほぼ1/3となっている。

図表 介護者



図表 介護者の年齢



(3) 利用している在宅サービス

●要介護認定者が利用している在宅サービスとしては、「訪問介護」が15.1%で最も多く、「訪問診療」(8.4%) 「訪問リハビリテーション」(6.8%)、「訪問看護」(5.3%)、「訪問入浴介護」(4.9%)の順となっている。

図表 利用している在宅サービス

